

宮前町の歴史



■宮前公園と赤城山(ドローンによる撮影)



■宮前会館

宮前町の年間行事



■3月末／町内総会



■4月・8月／町内美化一斉清掃



■文化作品展(隔年)



■納涼祭



■納涼祭(隔年)



■どんど焼き



■新年祝賀会

もくじ

年間行事

まえがき	1	生涯学習推進委員	42
市長 祝辞	2	宮前町ボランティア	43
区長 挨拶	3	子ども会育成会	44
宮前町の概要	6	赤城親交会	45
宮前町と下植木地区の世帯数の推移	8	防犯地域パトロール	46
赤城神社	9	交通安全協会第七支部	47
石造美術群	10	宮前町のクラブ・サークル	48
懸佛(国指定美術品)	13	宮前町ダンス愛好会	49
境内の東・西・北には末社がずらりと並んでいる。	14	宮前町大運動会	50
赤城神社之景	15	宮前町の東日本大震災被害状況	51
写真による今昔	17	宮前町の農業	52
宮前町に架かる4つの橋	21	殖蓮中学校チャレンジウィーク	53
天増寺橋	22	宮前町の医療・福祉介護施設	54
宮前橋	23	随想 伊勢崎織物の歴史	55
植木橋	25	空襲当夜と翌日の終戦	58
新粕川橋	26	赤城山(大地の恵みを味わう)	59
新旧小字地図	27	女子寮(寄宿舍)大火災	60
古地図	29	カスリン台風と未曾有の大洪水	61
宮前町の土地区画整理事業と宮前公園	31	地域の鎮守様赤城神社	62
宮前会館	32	粕川の水車・亀・七つ目・あゆ	64
宮前町交番	33	宮前橋のこと	65
伊勢崎市東部中継ポンプ場と資源ごみ集積場	34	天神池(わらじ池)のこと	67
三分団(第1方面隊第3分団)	35	みやまえ新聞	68
赤城クラブ	36	人物「下城彌一郎」	69
婦人会	37	宮前町歴代区長・功績者	71
宮前町長寿会	38	歴代行政年度別役員氏名	74
ママさんバレー宮前クラブ	39	歴代年度別団体役員氏名	78
民生委員とミニディサービス	40	歴史年表	82
宮前公園愛護会	41	編集後記	85

まえがき

東本町・昭和町・下植木町と八寸地区の歴史、が次々刊行されました、宮前町においても先輩たちが元気なうちに作ろうという機運が高まり「町内史編纂のため資料・情報提供のお願い」という回覧が出されたのが2011年(平成23年)9月のことでした。多くの資料も提出していただき編集作業も続けてきましたが、あれから実に丸10年経ってしまいました、この間資料を提供していただいた先人たちも亡くなられたりしました、編集委員としてあまりにも期間が延びた怠慢を恥じ、ただお詫びするのみです。

この度ようやく関係者各位のご協力により発刊の運びとなりました。1980年の宮前町区画整理が転換期で田園地帯が住宅街へと劇的に変身しました。その移り変わりの写真も先人たちに残していただいて興味深い資料になりました。「宮前町行政役員名簿並び主要実績」(平成8年宮前町区編)というワープロ文字で16ページほどの冊子が残っていました。制作した人名もなく誰が編集したのか、わかりませんが貴重な資料で使用させていただきました。

私自身の原風景として終戦直後、中国満州から従兄親子が引き揚げて我が家に帰ってきた時のことを覚えています、伯母は帰国の際乱暴を避けるため髪の毛を切り、坊主頭の男の格好でいとこの二人、七歳の女子、五歳の男子を引き連れてきたことは、断片として覚えています。過去は変えられませんが、東日本大震災も、昨今の不安定な世情もテレビで見られる時代になりました、過去の歴史は変えられませんが、それを教訓として同じ過ちを繰り返さないようにしていきたいものです。

多くの方々のご協力に感謝申し上げます。

令和4年10月

尾内本典

「宮前町の歴史」発刊を祝して



伊勢崎市長 臂 康 雄

この度は、「宮前町の歴史」発刊、おめでとうございます。

発刊にあたりましては、10年間の年月をかけ準備を進めてきたとお聞きしております。地域の方々の地元を愛する心と、関わった方々の絶えまぬ努力に深く感謝を申し上げます。

宮前町が位置する殖蓮地区は古代から人々が生活をし、様々な歴史を刻んだ土地です。国指定遺跡である佐位郡正倉跡をはじめとし、上植木廃寺、原之城遺跡、権現山遺跡等、市内の貴重な遺跡が多数存在します。

宮前町を代表する貴重な歴史資料としましては、地名の語源ともなっている、下植木赤城神社にあります石造美術群があげられます。十数点ある石造塔婆類の中でも、中央の宝塔二基と石幢一基は群馬県指定重要文化財となっており、保存状態もよく見事な造形です、十三世紀から十四世紀に建てられたこの石造美術群は、この地方の特色を示す大変貴重な文化財です。

また、宮前町出身の偉人としましては下城彌一郎の名が思い浮かびます。伊勢崎織物協同組合の敷地内にはその偉業を称え、碑が建立されており、市の指定文化財となっております。戦前戦後の伊勢崎地域の経済を支えた織物産業は、現在の伊勢崎市発展の礎となっております。宮前町には下城彌一郎の生家が今でも残るとともに、当時の面影をとどめる風景を今でも見ることができます。

時代は令和となり私たちの生活にも様々な変化が訪れています。一步立ち止まり、過去の歴史に目を向けることで、先人たちの築いてきた歴史の中に、新たな兆しが埋もれているのかもしれませんが。私自身もこの事業に関われたことに際し感謝を申し上げます、お祝いの言葉といたします。

「宮前町の歴史」に寄せて



宮前町区長 嶋田 高之

宮前町で生まれ育ち、子供の頃学校から帰ると近所の空き地や川で、暗くなるまで遊ぶ毎日でした。自然に恵まれ、のんびりした当時の町の様子は今も目にうかび、郷愁を感じ育ててもらった郷土への愛着が深まります。

小学生では野球や相撲、成人してからも町内運動会やスキー教室、地区ソフトボール大会など楽しい思い出がたくさんあります。当時は大人子供問わず、住民同士の一体感を感じました。

遊び道具は貴重でボールなどツルツルになっても使っていました。

現代はモノが豊富に有り、便利な世の中になりました。今日の発展の影には数多くの方々の努力と苦勞の積み重ねがあったものと思います。

激動の時代を経てきた郷土「宮前町の歴史」を本書で振り返り、私たちの生まれ育った宮前町を誇りに思うと共に、改めて郷土の礎を築いてこられた数多くの方々に深く感謝したいと思います。

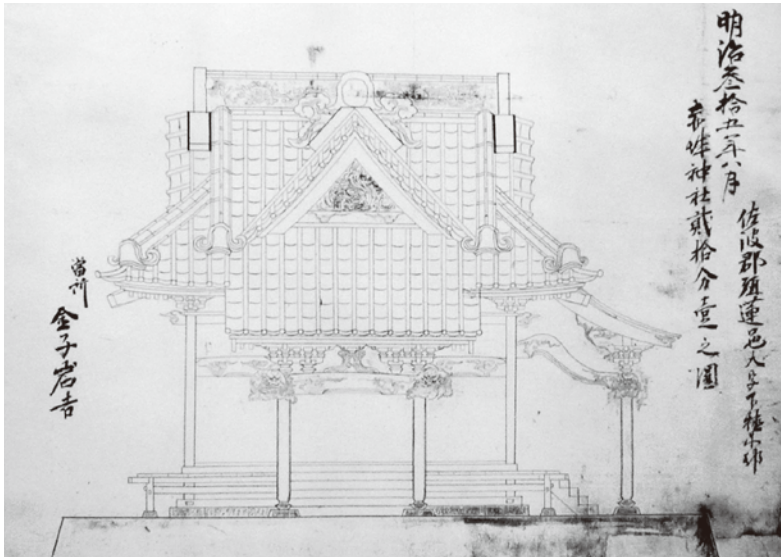
「宮前町の歴史」発刊、誠におめでとうございます。刊行にあたり編集委員の皆様には大変なご苦勞があったと思います。感謝申し上げます。

本書が町民の皆様にご愛読いただき、新たな宮前町の歴史の一步となることでしょう。

これからも町民の皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げます。



宮前町の歴史



■赤城神社正面図(明治35年8月金子岩吉)



■堀田染色の工場全景



■宮前橋



■空襲後の航空写真

宮前町の概要

伊勢崎市は東京の北西約82km、群馬県南東部に位置します、J R 両毛線と東武鉄道伊勢崎線が接続し、国道17号線をはじめとして、国道354号が高崎市と邑楽郡板倉町を結ぶ東毛広域幹線道路として整備され2014年8月に全線開通しました。他に

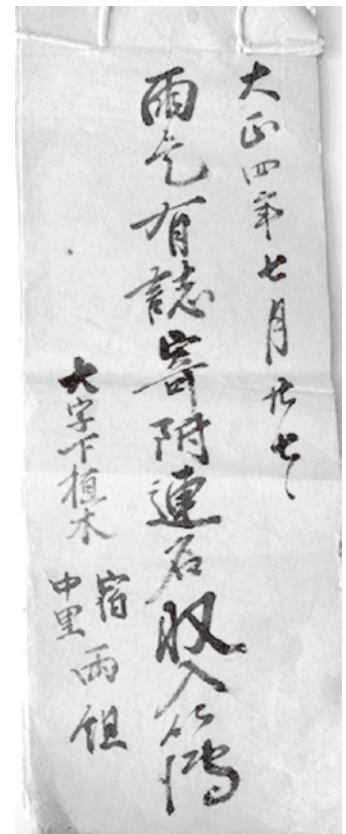
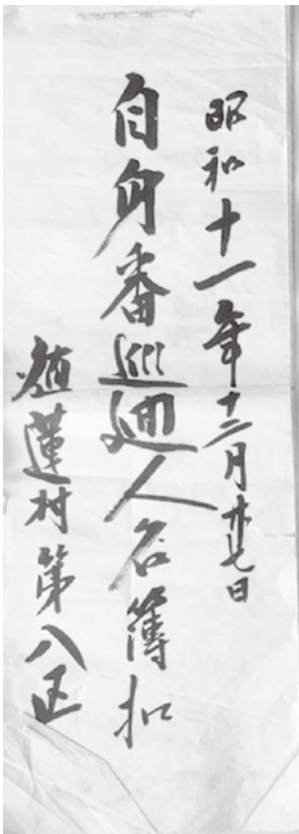
主要地方道路が市中心部から放射線状に伸びるなど、交通の要衝として発展しました。

宮前町は北緯36,19.22東経139.12、23(宮前会館) 伊勢崎市のほぼ中央に位置します、地形的には赤城山小沼を水源とする一級河川粕川が長い裾野に沿って北から南に流れてきたのが、主要地方道39号足利伊勢崎線に架かる宮前橋の下流から大きく流れを東に変えて曲がってきて、下植木町から、伊勢崎市上蓮町で広瀬川と合流し、境平塚町で利根川に合流しています。現在の人口(平成28年)は1200人(日本人

979人外国人221人、世帯数日本人484世帯、外国人109世帯)外国人の人口比率が比較的多い町といえます。家が新たに建つような土地も少なく、大幅な人口増は期待できないところであり、これからは高齢少子化が進んで人口は減少すると思われま

す。平成1年宮前町区画整理事業が完成したのに伴い、12000㎡の広大な宮前公園ができ、国道462号線(長野県千曲市から伊勢崎市富士見公園までの116km)が町内を東西に二分するように貫いております。

宮前町は明治22年以前には佐位郡下植木村宿組といわれました。明治22年(1889年)上植木・下植木・八寸の3村が合併して殖蓮村が誕生して、宮前町は殖



蓮村大字下植木宿組となりました。前頁の「雨乞い寄付通帳」は区の保管庫に保存されている一部ですが宿組(宮前町)・中里(昭和町)と連名で両組となっております。

明治37年町名が番号制になり、殖蓮は全15区で宮前町は第八区となりました。

昭和15年9月13日、伊勢崎町と殖蓮村・茂呂村が合併して全国で167番目の人口40004人の伊勢崎市が誕生、これに伴い伊勢崎市宮前町が誕生しました「宮前町」の呼称はこれ以来となります。平成17年1月1日には、伊勢崎市、赤堀町、東村、境町の4市町村が合併し、新しく人口20万人の「伊勢崎市」として生まれ変わり現在に至っております。

宿組と言われたころは赤城神社の門前町でわずか34戸の農村地帯でしたが、伊勢崎銘仙が地場産業として大きく発展して、関連した「機屋」関連の仕事が増えて、一時期は、伊勢崎市の中でも工業生産額が宮前町の企業が名を連ねる時期もありました。

やがてだんだん着物を着る人がいなくなって、急速に伊勢崎銘仙は衰退し「機屋」は少なくなりました。

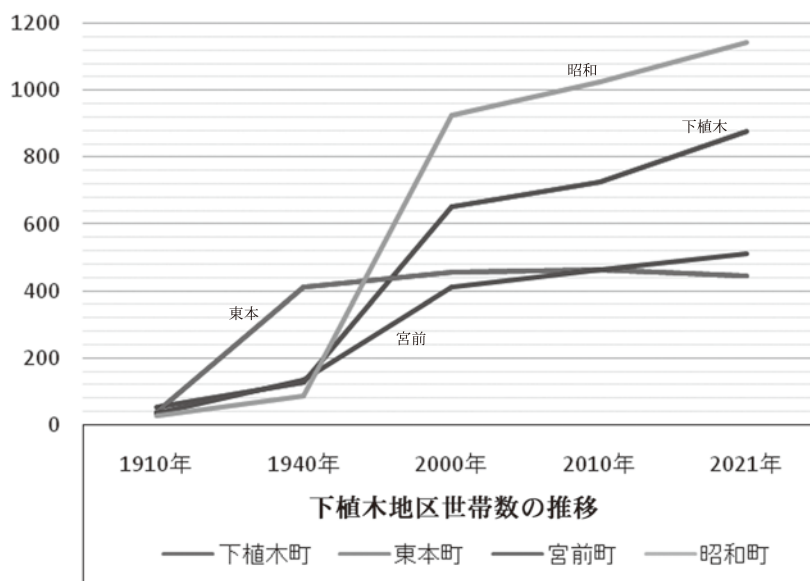
足利県道から両毛線の汽車が見えていた広大な田園も、宮前町区画整理事業を境に、住宅地に様変わりしました。



宮前町と下植木地区の世帯数の推移

■下植木地区世帯数の推移

	1910年	1940年	2000年	2010年	2021年
下植木	52	126	651	726	879
東本	37	412	455	465	446
宮前	33	135	411	463	513
昭和	26	87	925	1027	1144



下植木地区は農村地帯で世帯数の変化は少なかったのですが、戦後昭和20年頃より銘仙の生産地として盛況で大きな煙突が林立したといわれています、機屋関係者のほか、商店も集まり、銭湯まで出来て特に六丁目(東本町)は殖蓮小学校ではクラスの中で一番多かったようです。建築基準法が施行された昭和25年以前は4メートル以上の道路に面している接道規定がなかったため、家も軒が重なるように人口が集中しました。やがて地場産業である伊勢崎銘仙は衰退し、農村は住宅地に替わり、昭和町は1000軒を超える大町内になっていきました。下植木町はそれに続いて農地が住宅地になりつつあり人口増が続いています。その点東本町・宮前町は開発の余地は少なく人口は変わらないようです。

■宮前町世帯数の推移

和暦	西暦	世帯数	和暦	西暦	世帯数
明治25年	1892	33	大正12年	1923	83
明治32年	1899	35	昭和3年	1928	85
明治37年	1904	38	昭和15年	1940	135
明治43年	1910	48	平成12年	2000	411
大正2年	1913	55	平成22年	2010	463
大正5年	1916	62	令和2年	2020	513

赤城神社

赤城神社の創建は安閑天皇4年(535)に赤城山に鎮座する赤城神社の分霊(磐筒男命:イザナギが十拳剣でカグツチを斬った際、流れた血が神格化した。)勧請されたのが始まりと伝えられています。当時周辺を支配していた檜前部君一族



の崇敬社となり社運も隆盛し、上野国神名帳では「佐位郡、従四位上郡玉明神」に賜ったとあります。以来、歴代領主である、藤原氏、平氏、清原氏、三浦氏、上杉氏、長尾氏、赤石氏、林氏などに崇敬され社殿の改修や造営、社領の寄進が行われました。往時は周辺7郷(19村)の総鎮守で末社99社を擁する大社として大きな影響力があったそうですが、戦国時代の天正15年(1587)に上杉勢の兵火で多くの社殿、社宝、記録などが焼失し一時衰退します。

慶長年間(1596~1615年)に伊勢崎藩主、稲垣長茂が社殿を再建した際に三夜沢赤城神社から井下氏を神主として招き、殖木三所大明神として奉斎、正徳元年(1711)に正一位に列した際に、赤城明神としています。

古くから神仏混合していて、境内には天台宗法華信仰に関係が深いとされ、室町時代(観応2年:1351年建立の宝塔・貞治5年:1366年建立の多宝塔・延徳2年:1490年建立の石幢など)に建立された多宝塔や石仏などが多数あり群馬県指定重要文化財に指定されています、明治時代初頭に発令された神仏分離令を経て明治6年(1873)に村社に社号を「赤城神社」に改めています。赤城神社拝殿は木造平屋建て、入母屋、棧瓦葺き、平入、桁行3間、正面1間向拝付き、外壁は真壁造板張り。

本殿は一間社流造、銅瓦棒葺き、外壁は極彩色で彩られています。祭神:磐筒男命、大己貴命(大国主命)

石造美術群

赤城神社境内には、鎌倉から室町時代にかけての優れた石造塔婆類が数点ある。昭和35年群馬県指定重要文化財の指定を受けた、完形のもの3点、南北朝時代から室町時代のものである。昭和58年拝殿の西に古碑殿を新築して収められた。



■植木宮古碑殿

■観応二(1351)年銘の宝塔

総高205cm、相輪部は後補と思われる。塔身は上部にくびれのある宝塔である。基礎の正面に「観応二年11月〇日」の日付と結尾に天台宗法華信仰を物語る銘文がある。脇には建立者、石工等が刻まれている。建立者として秦清吉、同清才、同貞吉、同重吉の四名は当時の機織の最高技術者と考えられています。

〈群馬県指定重要文化財〉



■宝 塔

(貞治5 (1366)年銘)総高214cm。他に類例のない形式である。下より基台、基礎、塔身とあり、その上に基台、基礎を合せた如き凸形の石造りの中台を置き、更に屋蓋、相輪を重ねたもので、相輪は後補と思われる。基礎正面には建立者である泰氏や石工の名が刻まれ、「多宝踊現」と法華信仰の銘文があり、中に赤城信仰がこの頃、小沼・大沼・地藏という三所明神信仰として成立していたことを物語る145文字が刻んである。〈群馬県指定重要文化財〉



■石 幢

延徳2 (1499)年2月16日銘)、総高215cm県内に多い六地藏石幢の一種で、塔身部の輪廻車を除いて、すべて当初のものである。龕部は七面に分れて、通例の六地藏の他、延命地藏か勝軍地藏を加えてある。当時の南無阿弥陀仏と称えながら輪廻車を廻すことにより、極楽浄土に再生できるという六道輪廻の思想を表現している。〈群馬県指定重要文化財〉

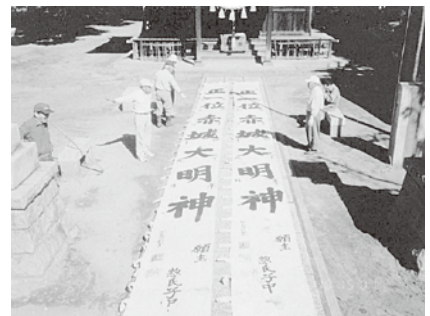


■板 碑

古碑殿の奥に小さな板碑が置かれています。

伊勢崎市発行伊勢崎市史編さん資料「伊勢崎の板碑」には所在地が伊勢崎市宮前町1487島田静雄となっています。島田静雄氏は現在他市に移住して、この板碑は昭和58年(1983)伊勢崎市図書館に寄託されましたがその後古碑殿に保管されています。「伊勢崎の板碑」の説明文には康暦2年(1380)総高90cm、幅25cm完形、東部に二条線、塔身部は枠線内に阿弥陀三尊種子、中尊にのみ蓮台、紀年銘・光明真言を刻む。光明真言は六字四行に分記となっています。

祭礼の時に掲げられた幟旗一对、長さ約10メートル、文化14年丁丑(1817年)と記されています。〈麻製〉



■赤城神社奉賛会〈修復工事費16,706,675円〉

平成3年8月台風により立木が倒れて赤城神社拝殿の屋根が大きく破損しました、拝殿の修復及び社務所の改修、その他付属建物の改修が計画されて、平成4年には奉賛会入会申し込みを開始したところ、たちまちのうちに資金が調達されて改修工事が完了しました。平成5年2月



■赤城神社歴代総代

平成4年～8年	柳澤 武男	飯島 浩一	下城 敏郎
平成9年～10年	柳澤 武男	松本 吾郎	茂木 文夫
平成10年～18年	松本 吾郎	堀田 弘	茂木 文夫
平成19年	堀田 弘	茂木 文夫	中村平八郎
平成20年～25年	堀田 弘	中村平八郎	城田 幸作
平成26年～27年	中村平八郎	天田 勝好	石田 博紀
平成28年	天田 勝好	下城 雅之	
平成29年	天田 勝好	佐俣 尚稔	
平成30年～31年	千明 亨	山口 浩一	多賀谷智信
令和2年	千明 亨	山口 浩一	柳澤 勝美
令和4年	千明 亨	柳澤 勝美	井上 雄二

懸 佛（国指定美術品）

弘長四年（1164）甲子2月13日 右志者为藤原是員（貞）？所願成就也

・径 43.2cm ・厚さ 0.2cm ・外縁厚さ 0.4cm

表面／十一面千手観音坐像を刻陰

裏面／陰刻銘

懸佛（かけぼとけ）は本来御正体といわれ神佛像を柱や壁面に懸けるところからこの名称がつけられた。明治初年の神仏分離の際に仏具等はほとんど廃棄されたが、赤城神社の懸佛については、弁事役所に伺書を出していた。その回答（藩主酒井公の添書きがある）は他の仏具等と共に井下ご主家に預け置かれた、とある。この写真は井下氏が三夜沢より持参した「懸佛」である。



赤城神社の碑文によると、当殖木宮（赤木神社）の創建は古く安閑天皇の御世（五三五年頃）に檜前部君（ひのくまのきみ）一族により氏神「赤木社」として建立されたもので、元慶（八八〇）の頃佐位郡の大社として従四位玉明神の神位を贈位せられた檜前部の人々の末裔に護られてきた。赤城神社はその後何度かの火災で焼失したが、慶長元年（一六〇八）伊勢崎藩主稲垣長茂存生中、菩提寺天増寺へ佛参の節、植木社「赤城神社」の荒廢せるを見て社殿を造営せしが、神主なきを以って赤城山三夜沢赤城神社神主奈良原宮内と交渉、同社社家井下伊賀成種の弟源左衛門成元を召し寄せ神主となし、天増寺領50石の内10石を神領と定む、正徳元年（一七一）九月正一位の神極意を授けられ、その宣旨は現存するところである。

以後井下家は同社神主を世襲す。時を経て長尾氏一門家来離散の際、井下一族の者三夜沢へ落着して同所へ社人となりて存したため、旧縁故に植木社へ神主に迎えられし也。（長尾家・井下氏古文書より抜粋）

井下氏は、近代伊勢崎発展のため尽力され初代伊勢崎商工会議所会頭を務めた井下辰雄氏の先祖である。井下家はその後東京に転居され、現在この懸佛は東京在住の井下家に保管されている。

境内の東・西・北には末社がずらりと並んでいる。

■東

- 天満宮 (祭神 菅原道真公)
 鹿島神宮 (祭神 建御雷之男神)
 蚕影神社 (祭神 大気津比売之神・桧前部之黒麻呂公) 上気野之君
 雷電神社 (祭神 大雷之神)
 猿田彦神社 (祭神 猿田彦大神)
 稲荷大社 (祭神 宇迦之御魂大神・猿田彦大神・大宮能売大神)
 江ノ島弁財天 (祭神 多紀理比売命・市寸島比売命・田寸津比売命)
 巖島神社 (祭神 田心姫命・市杵島姫命・湍津姫命) 品陀和氣命
 疱瘡神社 (祭神 桃太郎・鎮西八郎為朝)



■西

- 豊木入日子命
 磐筒之男神
 素戔鳴尊
 木花之佐久夜毘売命
 神明宮 (祭神 大日靈尊)
 大物主命



■北

- 摩利支尊天 (安永三甲午九月十二日)
 天之御中主大神
 飯玉神社 (祭神 保食命)
 愛宕神社 (祭神 伊弉冉尊・埴山姫命・天熊人命・稚産靈神・豊宇気毘売神)
 諏訪神社 (祭神 建御名方神)
 秋葉神社 (祭神 火之迦具土神)
 八坂神社 (祭神 素戔鳴尊・櫛稻田媛命とその御子神)
 多紀理比売命・市杵島比売命・多岐都比売命
 天之忍穂耳命・天之菩卑能命・天津日子根命
 活津日子根命・熊野久須毘命)
 八幡宮 (祭神 比?大神・誉田別命・息長帯比売命)
 榛名神社 (祭神 埴山毘売神・火産靈神)
 少名毘古那神社 (祭神 少名毘古那神)
 金刀比羅宮 (祭神 大物主命・崇徳天皇)
 大山祇神社 (祭神 大山津見神)



写真による今昔

宮前町区画整理前と区画整理後の比較写真



■宮前会館信号角



■田んぼのあぜ道が区画整理で (右)宮前公園 (左)原医院



■新田用水 浜野屋の跡地はパチンコマルハンに

宮前町区画整理前と区画整理後の比較写真



■ (左)昭和町 (右)菅谷さん 松井さん



■ (右)松井さん (左)下城さん



■ (右)柳澤武男さん 突き当りは吉江自動車昭和町(石田さん北に移転)

宮前町区画整理前と区画整理後の比較写真



■写真に寄せて

世の中どんどん変わってゆく、特に土地開発はものすごい。
昔は何年経っても、そう変わらなかった、だが現代は2~3年経つとその地形を変えてしまう。

土地開発が果たして人間にとって住みよいところにするのだろうか？

私はかならずしも文化的生活に即応するとは思わない、古いものを懐かしむ懐古趣味でなく、自然と即応した生活環境こそ本当に人間の住むところだと思っている。

私は初めから区画整理に反対し続けた、人は言う本当に自分たちの土地が良くなるのだから…と賛成を求める

はたして本当に自分たちのこの住んでいる土地がこの為に良くなるのだろうか？
私は否と言いたい、然し私の考えとは逆にどんどん開発されてゆく、そこでせめて北浦だけでも古い地形をカメラに残しておこうと思った。

堀 田 弘

宮前町区画整理前と区画整理後の比較写真



■足利県道宮前橋から東へ



■正面は松阪食品 (右)高野 小林洋宅



■明星電気第3工場跡 (左)プレイグラウンド (右)下植木町

宮前町に架かる4つの橋

粕川と四つの橋

上毛三山の一つ名峰赤城山の火口湖である小沼から、流出する水が粕川の水源地である。勢多郡富士見村に発して不動の滝となって落下し、粕川村、宮城村、伊勢崎市赤堀地区、上植木地区を南下して、下植木地区中央で東方に流路を変えて境町に流入し、灌漑用水として利用され、伊勢崎台地西を流路とする広瀬川に境町武士で合流する。全長32.9kmの流路を終える一級河川である。

わが町内の粕川に架かる橋は上流から天増寺橋、宮前橋、植木橋、新粕川橋の四つの橋は、一つの町内としては宮前町だけです。



■国道462号 新粕川橋



■桐生県道 天増寺橋



■昭和25年：宮前橋開通と市制10周年記念のお祝い

「伊勢崎風土記」より 寛政十戊午年五月朔旦
関 重 巖

粕川…源出赤城山中小沼。

到佐位郡武士村合比利根川。

	長さ	幅員	歩道の有無	道路名称と橋の完成年月
天増寺橋	54.3m	17.8m	両側	桐生県道 68号 平成22年3月竣工
宮前橋	49.87m	10.25m	片側	足利県道 39号 昭和25年8月完成
植木橋	48.4m	5.0m	なし	市道(スイカ通り)15-14 昭和37年3月完成
新粕川橋	48.4m	16.8m	両側	国道462号 昭和57年3月竣工

天増寺橋



天増寺橋は県道桐生伊勢崎線が粕川に架かる宮前町北端の橋です。名称は近くの太陽山天増寺に由来します。天増寺参道の手前、県道脇に寺号標と橋供養地蔵尊があります。橋供養地蔵尊は宝暦12年(1762)には天増寺十世住職が、氾濫をくり返した粕川で亡くなった被害者の御霊を慰める為、お布施を集めて建てられたもので、橋供養地蔵尊としては伊勢崎市内最古、台石を合わせた高さは4.67メートルと群馬県内



■橋の西より 右の木立は赤城神社

で最大級の地蔵尊で伊勢崎市の重要文化財に指定されています。毎年秋には近隣の人たちが集まって盛大な供養が行われます。橋には人や物資の往来のためと、現世と来世を結ぶものという考え方もあり、当時の人々の願いや信仰の様子がうかがえます。桐生県道の北側にも宮前町籍の住民が二世帯、旧イコウ堂文具店(井下氏)ほかがありました。これは粕川が蛇行して桐生県道が迂回していた名残です。伊勢崎駅周辺地区では、両毛線・東武伊勢崎線の連続立体交差事業や土地区画整理事業による駅前広場や都市計画道路などの都市基盤整備が進んできたことから、市の玄関口にふさわしい良好な街並みを形成するた



め

の地区計画が進められ、以前は曲輪町で行き止まりだった桐生県道は、J R伊勢崎駅前を通り大田町三家橋まで通ずる利便性の高い、文字通りの幹線道路になりました。現在の近代的な橋は平成22年に竣工されました。また電気の地中化工事が進み電柱が見えないすっきりした町並みになっています。



宮前橋

明治8年大スギを二つ割りにして 川を渡す一本橋が村人の手で完成、大水で流されないように一方を縄で括りつけて通り、この通りを一本橋通りといたしました。明治43年8月台風により粕川が氾濫大きな被害が出るという記録がありますが同年に、宮前橋新道が完成、宮前橋東100mのところに「宮前橋新道記念碑」が建っています。下記がその碑文です。その後足利県道も道を広げ、大正8年11月コンクリートの橋が完成、堤防も一部コンクリート製ができました。



宮前橋新道記念碑

吾ノ宿組ハ西方伊勢崎町ニ接シ北ハ天増寺橋南ハ太田新道ノ便アリマタ東武鉄道ノ開通アリ然リトイエドモ■モ従来当所ハ粕川ニ長サ八間余リノ一本橋ノ架リシアルノミ故ニ南北ノ両道ヲ迂回ヤサレハ車馬ヲ通スコト能ハス之レ発起等ノ遺憾トスル所ナリ今ヤ開通ノ気運ニ際シ通道ノ必要ヲ感じ有志者ト謀リ篤志家ヲ寄付金ヲ仰ギ新道ヲ開キ橋梁ヲ架設シ宮前橋新道トナツケ以テ通行ノ便ヲ得タリ是単ニ当組ノ幸福ノミナラズ亦以テ国民幸福ノ助トナス

明治43年5月吉



■大正七年宮前橋改築竣工
渡初式役員及び招待者其の他



昭和22年9月15日カスリン台風に見舞われ、橋も堤防も濁流にのみこまれ、石垣・家・工場がスローモーションの映画を見ているように目の前で崩れ去ったと言います。宮前町内では流失家屋5軒、半壊家屋2軒、床上床下浸水数知れずの大災害で両方の橋詰めが壊れ、足利

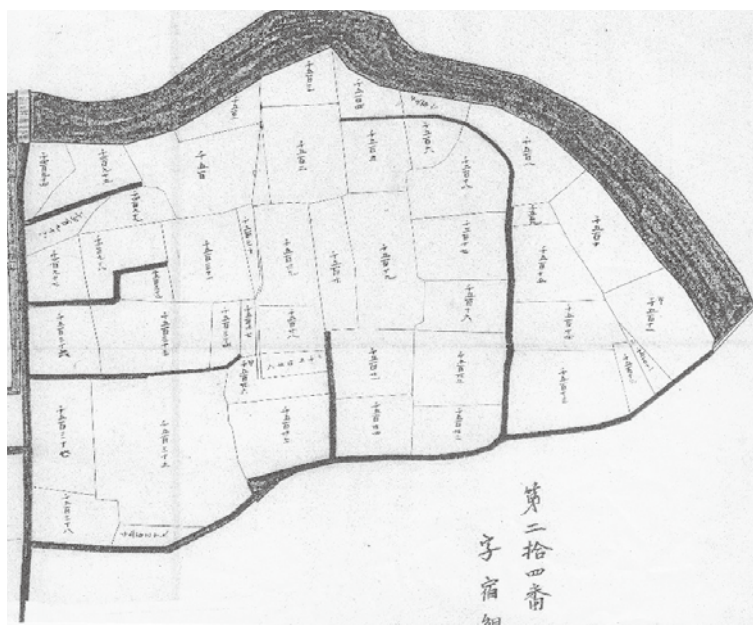
県道は不通になりました。

宮前橋に限らず宮前町に掛かる橋の歴史は、たびたび襲ってくる洪水との闘いの歴史でした。

その後昭和25年7月高い堤防を備えた今の宮前橋が完成、昭和62年5月北側に歩道が出来、幅員も広くなり今の宮前橋になっております。



植木橋



粕川に架かる橋としては宮前橋より早く架けられました、左図は大正2年絵図師小保方吉五郎による旧宿組の絵図ですが、下城本店からまっすぐ南に下がって植木橋が架かっていました、高橋さん、柳澤さん、根岸さんのすぐ庭先に粕川が流れていたことが見て取れます。名残は根岸さん宅の南に深い溝が認められますがそこが粕川だったといわ

れております。

大正14年植木橋流失昭和2年架橋という記録があります。昭和18年太平洋戦争中には「馬の愛情物語」として有名になった実話がありました、南から狂ったように走ってきた傷ついた馬を根岸梅蔵さんが取り押さえ、獣医を連れてきて手当てをし、飼い主に子馬を連れてこさせ合わせて落ち着かせたといひます。昭和22年のカスリン台風で流失しましたが、以後高い堤防が築かれ川幅も大幅に広くなりました、昭和37年架設された現在の植木橋の渡り初



め時の写真が上の写真です。

下城義三郎市長さんが先導で3代夫婦がそろった島田利蔵さん一家が続いています。これを機に川の流れが変わって、川向うの本町六丁目(現東本町)だった当時の市議員石原市太郎氏(現石原得男氏)他数軒が宮前町に編入になりました。



新粕川橋

宮前町区画整理事業に伴って国道462号線(起点長野県佐久市、終点伊勢崎市赤城見大橋)が開通して、昭和57年に新規に架けられた橋です、長さ48.4メートル、幅16.8メートル。

古くはこの橋の北側に下城彌一郎氏の四男勝麿さんが大正7年「互盟商会」を興し従業員の社宅約20戸が建ち、社宅の西には「文化荘」という薄紅色のとんがり屋根のしゃれた2階建ての別荘を建て芝生の中の丸い池には噴水を揚げておりました、桐生の「飯塚」か、伊勢崎の「互盟」か、と競った有名な機屋で、他の農村から比べると文化的な生活環境が整っていたので「文化村」と称されました、稲荷様が祀られて粕川に私設の橋が架けられ「いなり橋」と呼んで、お祭りでにぎわったということです。その後明星電気第三工場になり明星電気第三工場が撤去した後小林当織物(株)伊勢崎工場となり現在は「プレイグラウンド」です、また宮前町区画整理事業により、下植木町から6戸と1事業所が宮前町に編入になり「プレイグラウンド」も宮前町の区域内になりました。粕川橋を渡った西側にこんもりとした林が見えますが、これはその昔初代の伊勢崎藩主稲垣長茂に招かれた土着の武士団、長尾氏が居を構えた「長尾屋敷」の跡地で、今でも東本町郵便局隣を流れる、「逆さ堀」が名残を留めております。殖蓮史談会が由緒ある長尾家にちなんだ「長尾橋」と命名するよう署名運動しましたが、実現は叶いませんでした。

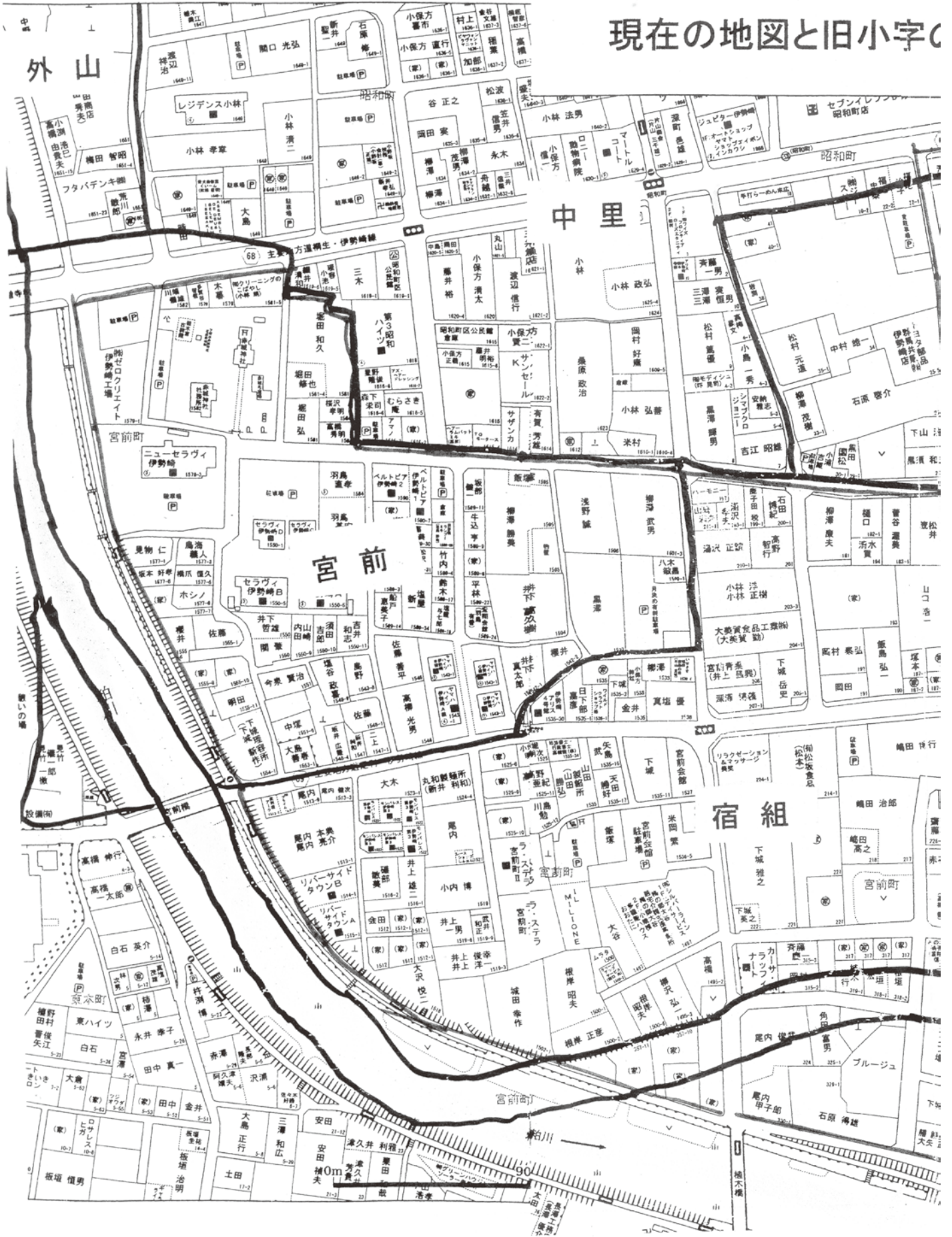


■明星電気第三工場撤去跡の空地、お稲荷さんの祠が文化村の名残をとどめております。

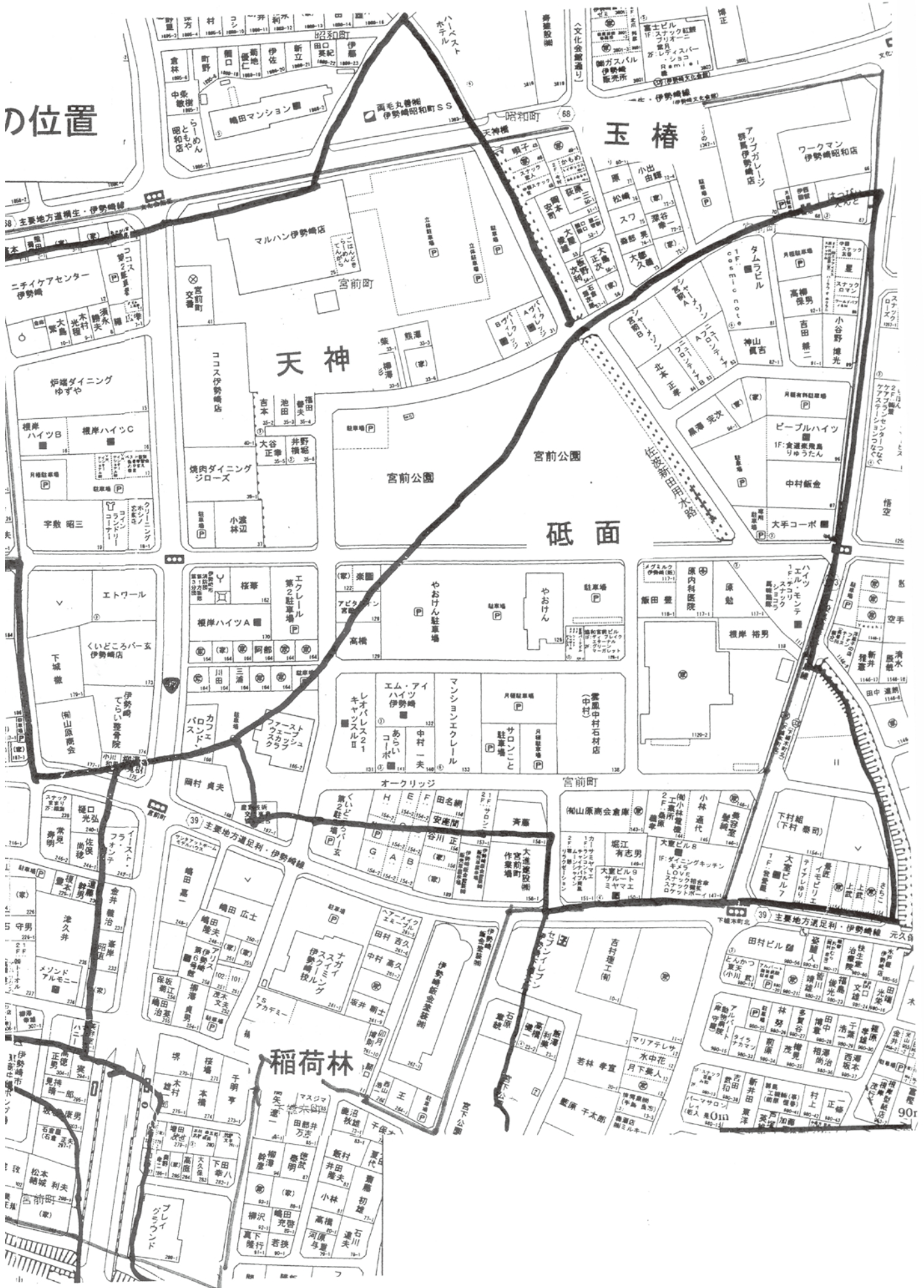


た林が見えますが、これはその昔初代の伊勢崎藩主稲垣長茂に招かれた土着の武士団、長尾氏が居を構えた「長尾屋敷」の跡地で、今でも東本町郵便局隣を流れる、「逆さ堀」が名残を留めております。殖蓮史談会が由緒ある長尾家にちなんだ「長尾橋」と命名するよう署名運動しましたが、実現は叶いませんでした。

現在の地図と旧小字の



の位置

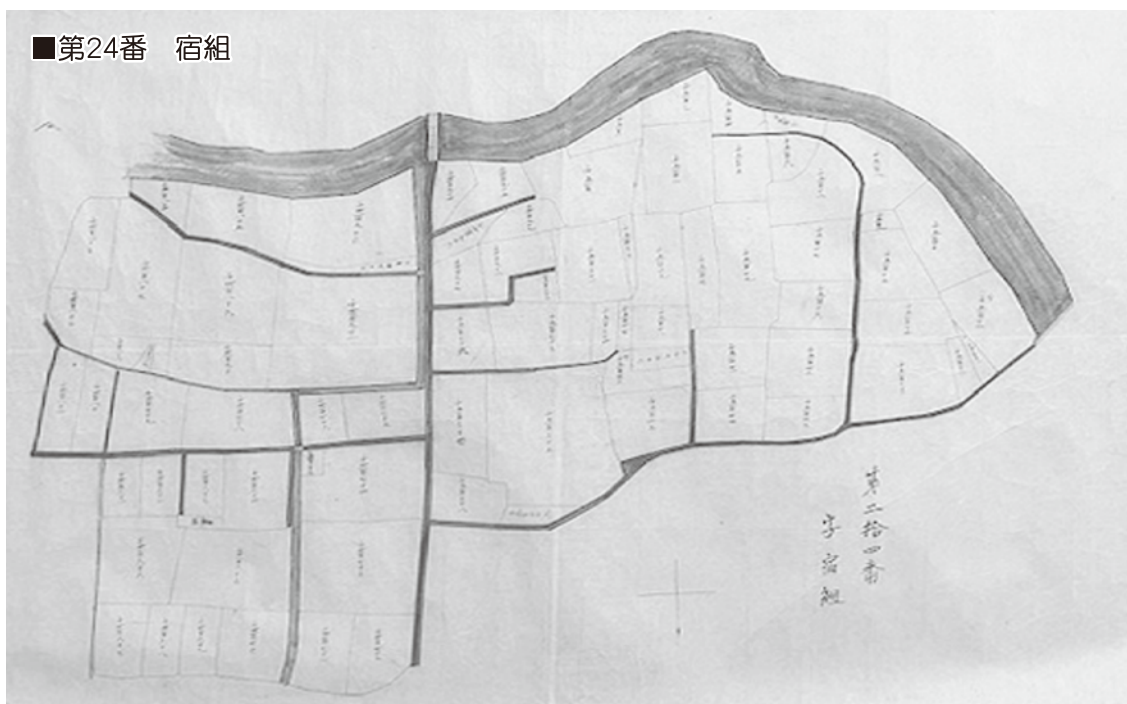


古地図

殖蓮下植木地区(書上地区含む)小字古地図

宮前会館西、100年以上は建っていたと思われる。第14代区長 柳澤茂一郎氏宅を解体した際出てきた、古地図を宮前町で譲り受けました。

半紙を4枚重ね合わせた大きさを約53cm×76cm、詳細な所番地も書き込んであります。 大正二丑年三月之改 絵図師 小保方吉五郎 六十九年と署名押印



現在の住宅地図と重ね合わせると区画整理前の所番地と見事正確に合致します。

コピーがない時代、境界線は赤、川はブルーと手書きで書き分けてあり、大変貴重な資料です。宮前町の関連のものだけ写真で撮りましたが、番号が振ってあり、1番海老谷戸から、62番上吉祥寺まで56枚の古地図で粕川の流れが変わっているのも興味深いものです。(2枚欠損)



宮前町の土地区画整理事業と宮前公園

昭和56年宮前区画整理事業が着工、平成23年に完工しました、対象区域は宮前会館から植木橋までの南北の道から東の区域です、これにより町の境界線が変わり下植木町から5軒、昭和町から5軒の編入がありました。国道462号線が南北を貫き桐生県道沿いを含めレストラン等飲食店やパチンコ店もできてにぎわっております。宮前公園(1200㎡)も整備され当初小さな木だったのですが今では太さ2m高さ10mを越える大木に成長しております。



■ドローンの映像 2021/9/10



■秋の宮前公園



■昭和56年宮前公園用地パチンコ王冠(現在やあけん)



■宮前公園夏

宮前会館

現在の宮前会館は平成16年に竣工しました。鉄骨造り鋼板葺き2階建て、敷地面積349,18㎡1階183.84㎡2階103.04㎡です。

以前の宮前会館は昭和17年7月23日現在地に建てられました、建築主柳澤幸太郎という記録が残っております。太平洋戦争の空襲にも耐え、昭和22年市内で44名の死者が出たカスリン台風、23年アイオン台風、24年キテイ台風と数々の災害にも耐えてきました。



■旧宮前会館



初代ぐんまちゃん
(ゆうまちゃん)
58国体の時の群馬
県のマスコット
(馬場のぼる画)

改修して、秋田県ソフトボールチームの宿舎として提供されました、区民の皆さんが協力して選手団のお世話をしました。

多くの区民の皆さんが利用され、実に62年間区民の生活をみつめてきた思い出深い宮前会館も、老朽化で現在の宮前会館に建て替えになりました。

旧宮前会館火の見やぐらに設置された半鐘



宮前会館玄関先靴箱の所に置かれている、半鐘は、昭和4年謹製の銘が読み取れます。この半鐘は盗難に遭ったかといううわさもあり、しばらく行方不明でしたが、平成12年嶋田治郎区長の頃、八幡町の区長から連絡があり「下植木宿組」の銘がある半鐘があるが宮前町のものではないか？という問い合わせがありました。どういう経過で八幡町にあったのかわかりませんが、早速貰い受けに行ってきたといういきさつがあります。

昭和17年以前の宮前会館は眞塩商店の西隣にあり火の見やぐらが置かれ火事や出来事があった時は半鐘を鳴らして近隣に知らせたということです。

宮前町交番

宮前交番は、北公民館隣にあった平和町交番が宮前町区画整理事業の完工に伴い、宮前町に移転し名称も「宮前町交番」に変わりました。開所式は平成21年4月10日五十嵐市長を始めとして、関係者が参列して開催されました。マルハンパチンコ(当時はスーパーヒタチャ)西の国道462号線信号角で、2階建ての明るい近代的な建物です。おまわりさんが3人～4人で3つのグループに分かれ交代で担当し、相談員も警察官OBが2名交代で常駐するそうです。

462号線を北に行けば鹿島町に伊勢崎警察署さらに伊勢崎消防署北分署もあり、消防第一方面隊第3分団の詰め所もすぐ近くにあって、安心安全の宮前町といえます。



■平成21年開所当時の宮前町交番



■平成24年7月(2012) 宮前交番



■令和2年8月 宮前交番

伊勢崎市東部中継ポンプ場と資源ごみ集積場

宮前町も下水道が普及され、新粕川橋北西23組にある、伊勢崎市東部中継ポンプ場が設置されています。

人の出入りもほとんどなく忘れ去られているような施設ですが、これは下水道から集まった汚水を圧送して粕川を越すためのポンプ場です、最終的には羽黒町の下
水最終処理場まで運ばれ浄化されて広瀬川に放流されます。設置当時この場所に「伊



■伊勢崎市東部中継ポンプ場

勢崎市東部中継ポンプ場」を造る話が市から来ましたが、説明を受けた当時の区長以



下役員は「迷惑施設であるから見返りを考えてほしい」と交渉しました。結果この施設の南に隣接する。「資源ごみ集積場」が全額市の負担で出来ました。屋根つきで快適に資源回収で集まったごみの分別作業ができて大変重宝しています。



第3分団(第1方面隊第3分団)

消防団は市民の生命財産を守るため火災の時の消火活動をはじめ、災害時に活躍する危険を伴う一番過酷なボランティア団体です。

第3分団は下植木地区4町内の住民で構成され、以前は東本町郵便局の近くに第3分団詰め所がありました。



■ 3分団詰所

宮前町区画整理事業が終了し国道462号線が開通したのに伴い、宮前町内の国道沿い信号角に詰め所が開設されました。

第2次世界大戦以前の「消防団」は火災の消火という主任務のほか、新たに「防空」という任務が加えられることになり、昭和14年(1939年)勅令「警防団令」により、消防組は「警防団」と名称を変え、防空監視や空襲爆撃下の救護活動の任務も担うことになりました。敗戦に伴い、昭和22年(1947年)勅令「消防団令」により、警防団という戦時体制の消防は「消防団」として再出発することになりました。昭和23年(1948年)「消防組織法」により、市町村長が消防の組織と運営の管理に当たることになり、常備消防と消防団が車の両輪となって市民の安心、安全に大きな役割を果たすようになりました。



嶋田治郎氏

宮前町の歴代消防団員の記録が昭和14年から残っていますが、嶋田治郎氏は昭和34年から42年間務め、平成11年からは伊勢崎消防団長を務められその功績により、平成13年には勲五等瑞寶章を授与されております。

〈3分団歴代消防団員名〉

井下蛙友治	尾内 正治	嶋田 嘉一	下城 重利	堀田 弘	井下 浩一
柏井郡次郎	金井 喜一	嶋田 治郎	嶋田 和幸	山田 勝弘	渡辺 春男
松本 元良	井上 昌興	浅野 誠	新井 利和	下田 竜司	中村貞三郎
下城 岳史	松本 典昭	牛込 亨介			

赤城クラブ

赤城クラブは、主にソフトボールを中心とした青年壮年男子のクラブです。親睦を図るためバーベキュー大会を開催したり、また「納涼祭」「どんど焼き」「作品展」等町内行事にはなくてはならない団体で、令和3年現在の会員は33名です。

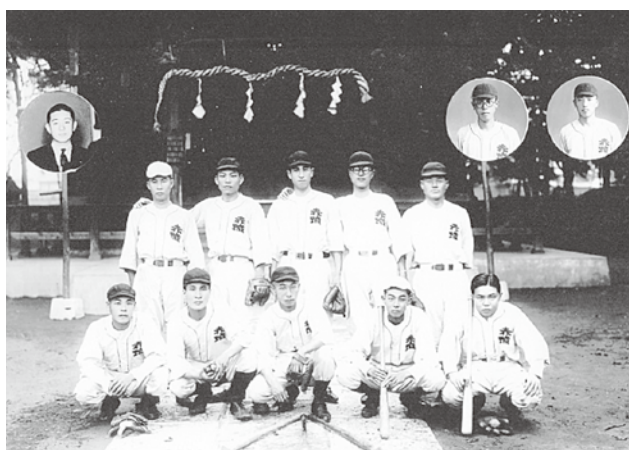
赤城クラブも高齢化が進んでいる反面、宮前町が区画整理事業で農地が、住宅地になったこともあり新たに宮前町に入居してきた住民が赤城クラブに入会して活気ある、町内行事でも中心的な役割を担っている団体です。

■歴代会長

井上喜久男	昭和51年～昭和59年
堀田 弘	昭和60年～昭和62年
山口 浩一	昭和63年～平成7年
片山 重晴	平成8年～平成15年
北本 正孝	平成16年～平成23年
角田 富男	平成24年～平成29年
湯澤 孝夫	平成30年～



■2016/11/16下植木地区スポーツ大会



■機屋が華やかじころの「赤城クラブ」野球チーム



■昭和60年2月 総会新年会

婦人会

第2次世界大戦が始まると、「大日本連合婦人会」「愛国婦人会」と軍事色の強い陸・海軍省の指導による「大日本国防婦人会」がつくられて「大日本婦人会」が結成されたのである。

戦後は、自主的な民主団体として婦人会が各地で再出発を図っていったのであるが、伊勢崎でも町内の組織の上に殖蓮地区の婦人会とあった、宮前町も殖蓮地区婦人会に所属していたが、殖蓮婦人会に所属する町内は少なくなり殖蓮地区としては消滅してしまいました。

現在宮前町婦人会は宮前町単独で活動しており、文字通り宮前町の成人女性の集まりです。いせさき銘仙が盛んだったころは、夜なべで機織りをして現金収入があったため、女性は強くなりそれがかかあ天下の一因ともいわれておりますが…。

現在の婦人会は町内の行事2年に一度の納涼祭・文化作品展・どんど焼き等にはなくてはならない団体です。旅行等で親睦を図っております。

■歴代会長

小内登志子	昭和62年～64年
島野優子	平成元年～6年
堺悦子	平成7年
山口悦子	平成8年～9年
柳澤祥恵	平成10年～13年
櫻澤澄江	平成14年～16年
樋口明美	尾内静枝 平成17年～18年
山田節子	石原榮子 平成19年～22年
羽鳥清子	根岸昭子 平成23年～24年
小林しま子	尾内静枝 平成25年～28年
羽鳥清子	根岸昭子 平成29年～



■平成16年どんど焼き

宮前町長寿会

平均寿命が男性81.64歳、女性87.74歳(2020年現在)と世界一位(女性)の高齢社会になりました。その高齢者の活動の場を担っているのが長寿会です。会員数83名(令和3年度)で年齢的には適齢者が年々増えているのですが、長寿会に入会する人は少なく近い将来、存続の危機が言われています、町内で一番会員の多い会です。

■歴代会長

菅谷英二	
柳澤貞夫	昭和62年
飯島弘一	平成3年
下城 勇	平成8年
堀田修也	平成12年
石倉正雄	平成19年
尾内本典	平成26年
川端儀雄	平成28年
尾内本典	令和2年



H21/9/15宮前公園清掃

■活動

殖蓮第二小学校通学路下校時パトロール
 初参り前の赤城神社落ち葉清掃
 社会奉仕の日／
 宮前公園・殖蓮第二小学校通学路の
 清掃、除草作業
 スポーツ／
 グランドゴルフ・スマイルボウリン
 グ・卓球
 春秋一泊親睦旅行
 町内行事協力



H24/ねんりんピック県大会優勝



■H22/12/25 赤城神社奉仕作業



■H23/5/30 一泊親睦旅行

ママさんバレー宮前クラブ

ママさんバレーが普及したのは、1964年東京オリンピックでバレーボール全日本女子が金メダルをとって活躍した頃で、PTAや公民館を通じ全国に普及しました。

また、1970年代の高度経済成長による主婦層の余暇の増加により、レジャーに目を向けるきっかけを生んだこともママさんバレーが普及した要因ででした。ママさんバレー宮前クラブも昭和45年(1970)から平成・令和の現在に至るまで、延べ70人余の選手が活躍して現在も活動を続けております。

殖蓮地区住民体育大会や殖蓮地区バレーボール大会・下植木地区親善スポーツ大会においても続けて参加していて、何度も優勝を果たして輝かしい歴史を残しております。

■歴代主将

嶋田 育子	島野 優子
石倉 松江	下田 光子
小林しま子	中村 令子
柳澤 晴美	
監督／	
櫻澤 孝明	



■昭和55年第三位



民生委員とミニディサービス



■ALD体操 2014/7/1

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱され、3年の任期で、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、一貫して生活困窮者の支援に取り組むとともに、社会福祉の増進に努める方々であり、時代の変化に応じて新たな活動に取り組むなど、地域の福祉増進のために常に重要な役割を果たしてきました。「児童委員」を兼ねています。高齢社会を迎えて宮前

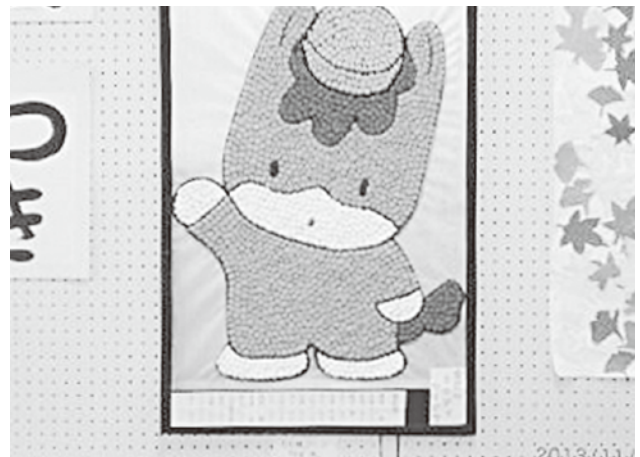


■平成26年参加者とボランティアの皆さん 2014/4/3



■平成15年旧宮前会館でのミニディサービス

町では市の助成を受けて平成14年から民生委員が中心になりボランティア、区の役員が協力してミニディサービスが始まりました。ミニディサービスとは、概ね60歳以上のひとり暮らし高齢者、家に閉じこもりがちな高齢者、虚弱高齢者等を対象にして、宮前会館で、介護予防・自立支援の観点から創作活動や趣味活動、給食サービス等を提供しています。



■みんなで作ったぐんまちゃん

■歴代民生委員

昭和31年～34年	井下蛙友治	
昭和35年～49年	嶋田光次	
昭和50年～59年	山田 稔	柳澤文子
昭和60年～61年	山田 稔	下城文江
昭和62年～平成1年	下城文江	山口悦子
平成2年～平成3年	山口悦子	尾内本典

平成4年～平成12年	尾内本典	根岸登美子
平成13年～平成19年	菅谷喜至子	柳澤淑子
平成20年～平成25年	櫻澤澄江	羽鳥清子
平成26年～平成28年	櫻澤澄江	黒澤里江
平成29年～平成31年	黒澤里江	中村令子
令和2年～	黒澤里江	嶋田高之

宮前公園愛護会

宮前町区画整理事業が完了余剰地として、12,000㎡の宮前公園ができました。これに伴ない伊勢崎市より委託を受けて平成2年4月1日宮前公園愛護会が発足しました。発足当時は嶋田嘉一区長・区役員をはじめ町内挙げて作業しました。作業内容は除草・低木の管理でしたが公園ができた当初は木も小さくて、初めはあぜかき・熊手・てみ・竹ほうき等を使っての手作業で実施しておりました。委託料をいただいているので会員は、旅行を楽しんだり、親睦を深めています。30年以上経った現在は木が成長して10mを越える大木になってしまいました。会員の数減りましたが、乗用芝刈り機・自走式草刈り機が完備して作業しております。



■宮前公園愛護会H21/4/26



生涯学習推進委員

生涯学習振興法が平成2年に制定されましたが、殖蓮地区では公民館の主唱で「殖蓮地区生涯学習推進員連絡協議会」が高齢化に伴う生涯学習を推進するという目的で設立されました。

宮前町では初代の生涯学習委員として堀田弘さんが就任、国の水田営農活性化事業で米作減反の一環として市街化区域内の水田に、景観形成作物としてコスモス・ヒマワリの栽培が認められ、宮前公園西の農地(柳澤たけさん所有)が休耕田になっていたのを、コスモスを咲かせて楽しみました。当時の「広報いせさき」の表紙に取り上げられたのが上の写真です。

この事業はしばらく継承されコスモスのほか、カキ菜を蒔き、収穫後は菜の花畑として楽しみました。平成13年からは「文化作品展及び菊花展」としてスタートしました今は菊花展がなくなりましたが、「納涼祭」と隔年で町内2大行事として定着しています。

■歴代生涯学習推進員

平成2年～5年	堀田 弘
平成6年～9年	城田 幸作
平成10年～13年	湯沢 正誼
平成14年～15年	高柳 光男
平成16年～19年	下城 雅之
平成20年～23年	千明 亨
平成24年～27年	石田 博紀
平成28年～31年	見物晴一郎
令和2年～	猪坂 周一



宮前町ボランティア

昭和63年12月に区長より、町内高齢者の「入浴介助」を実施する為のボランティアの立上げを依頼され、平成元年1月伊勢崎市ボランティア殖蓮支部に登録して活動を開始しました。

当時は、「入浴介助」ロータスヴィレッジ・愛老園の「シーツ交換とおむつたたみ」町内行事では新年会と運動会のお手伝いをしました。

「入浴介助」「おむつ交換」等の活動も介護保険の適用範囲の拡大と内容の充実といった時代の変遷と共に変化してきました。

現在は、「ミニディサービス」(平成14年4月開設)と「納涼祭」「敬老祝賀会」「作品展」「新年会」「どんど焼」等の町内行事全てに幅広くお手伝いをすると共に、殖蓮支部の一員としてロータスヴィレッジの「シーツ交換とおむつたたみ」「友愛募金」「赤い羽根募金」「各種福祉関係の催しの参加」「食事交流会」「友愛訪問」等の活動を行っています。

町内会員相互の親睦は「会員会議」「食事会」「町内行事のお手伝い」等の活動の中で図ると共に、殖蓮支部の「総会」「研修旅行」「ミニ学習会」「新年会」等に参加する事で、他町内会員との親睦・交流も図っております。(石田節子)



■ 29年度研修旅行(高橋まゆみ人形館)



■ 30年度ミニ学習会(上毛新聞社見学)



■ 3年度会員会議(宮前会館にて)

■ 歴代役員

根岸登美子	小内登志子	山田 節子
眞塩あぐり	堺 悦子	城田ナミ子
塩谷 俊子	栗原 浜子	金井 幸子
山口 悦子	嶋田 育子	小堀えみ子
下城八重子	井上 和子	小林しま子
塩屋より子	島田八千代	高柳 勝世
松井 孝江	石田 節子	渡辺まさ代

子ども会育成会

子どもにとって、親や学校の先生以外の大人との関わりは貴重な学びの時間です。地域の子ども達は地域全体で見守り育む、ここに育成会の一義的な役割があります。

宮前町子ども会育成会は殖蓮地区ふるさと祭に、午前中は町内を子供みこしでねり歩き、午後は殖蓮小学



校のふるさと祭におみこしで参加します。

11月23日の秋葉様のお祭りには下植木4町内で奉納すもう大会、12月には文化会館において殖蓮地区子供育成会主催のクリスマス会にこども達で作った演劇や踊りで参加します。

また隔年の納涼祭や、9月の敬老祝賀会にはダンスを披露して盛り上げてくれます。

少子化で子供の数が減ってきておりますが小中学校PTAとも協力して行事を進めております。



赤城親交会

会長 井上昌興 会計 新井利和

昭和後半の当時、各地の商店街で街路灯の設置が進められておりました。昭和町・宮前町の商店・事業所も賛光電器(高崎サンコーカントリークラブ関連会社)の説明を受け、昭和59年赤城親交会が出来ました。目的としては共同で街路灯を設置して商店街の宣伝のためと、町内を明るくすることでした。

赤城親交会は昭和59年4月1日より昭和町66件、宮前町35件、会長は昭和町が多賀谷善次さんで発足しました。そのうち昭和町と宮前町は分かれて、宮前町独自で運営されるようになりました。町内を明るくする防犯の意味もあり町内から助成金を受けています。町内独自の会員になってからは防犯灯の設置数も増えて、最盛期には60基あり

ましたが、現在は少なくなって28軒の会員になっています。発足当時は水銀灯

でしたが今はほとんど消費電力が少ないLED球に変わっています。会員が少なくなった分、今は防犯灯が狭い路地でも町内の隅々まで明るく照らしております。



防犯地域パトロール

平成16年6月「群馬県犯罪防止推進条例」が施行されました。その趣旨は、県民・事業者・行政が一体となって犯罪の起こりにくい街づくりを推進するための必要な事項を定め、県民や群馬県を訪れる人たちが安心して暮らすことができる安全な社会の実現を図ることを目的としたもので、群馬県警察、生活安全課からの呼びかけがありました、平成13年6月大阪池田小児童殺傷事件を契機に始まった地域ぐるみの防犯活動の意識が高まった時期でもあり、宮前町でも当時の嶋田治郎区長の呼び



かけで「宮前町防犯地域パトロール」が発足しました。宮前町の防犯のために月に2回～3回程度、地道な活動を続けております。

平成16年4月	発足	櫻澤	澄江	嶋田	育子	小堀えみ子	山田	節子	尾内	静枝
平成17年4月	代表	城田	幸作	(副)膳	勝美	高柳	光男			
平成19年4月	代表	櫻澤	澄江	嶋田	育子	小堀えみ子	山田	節子	尾内	静枝
平成21年4月	代表	城田	幸作	膳	勝美	高柳	光男	塩屋与七郎	山崎	満夫
平成22年4月	代表	高柳	光男	塩屋与七郎	山崎	満夫	尾内	本典	天田	勝好
平成23年4月	代表	高柳	光男	塩屋与七郎	山崎	満夫	尾内	本典	天田	勝好
平成24年4月	代表	天田	勝好	塩屋与七郎	尾内	本典	天田	勝好	植木	正行
平成25年4月	代表	塩屋与七郎	尾内	本典	植木	正行				
平成26年4月	代表	尾内	本典	坂巻	康夫	小保方道信				
		小保方道信	坂巻	康夫	坂井	正夫	深澤	敬典		

交通安全協会第七支部

宮前町交通安全協会の発足は当時の、伊勢崎交通安全協会が地区ごとに支部組織を置くことになり、宮前町交通安全協会の前身の第7支部が昭和29年10月1日に発足しました。(榊浜野屋の浜野六郎氏が中心になって設立に奔走されました。

下植木地区には第3支部(東本町と下植木町)と第7支部(昭和町・宮前町)が、上植木地区は第13支部・八寸地区は14支部でした。

平成16年支部の統廃合により第7支部は殖蓮支部として、(後に平成18年4月第3・第7・第13・第14・並びに女子部の5部が合併して)新しく編成されました。

日常の活動は朝夕の交通混雑時の街頭における自主的交通整理活動もしくは警察官などの安全活動の補助的協力活動、地域に根ざし地域住民の交通安全に務めるとともに交通安全に対する理解と協力を啓もうする。

女子部はハーモニカ・大正琴・マジック・腹話術・軽演劇と全国ゆるキャラ第3位(当時)のぐんまちゃんもPRにイベントにスケジュールをこなして居りました。

■歴代代議員

大島 善春	堺 有功	堀田 忠作	萩原 茂	嶋田 治郎
大美賀 勇	新井 逸成	下城 勇	岡村 貞夫	堀田 修也
高柳 保男	島野 敏雄	塩谷 政喜	川端 儀雄	羽鳥 直孝
神山 眞吉	城田ナミ子	井上きよ子	大和喜代恵	石原 榮子
山口 悦子	下城 町子	嶋田 一子		



■納涼祭での警邏中 平成7年8月



■ふるさと祭での子供会育成会のみこし誘導

宮前町のクラブ・サークル

殖蓮地区生涯学習推進員平成21年の調査で宮前町のクラブ・サークルが紹介されています、ママさんバレーボール・グラウンドゴルフ・ゴルフ倶楽部・ソフトボール・切り絵は、それぞれの団体等の中で活動していますが、スマイルボウリング・日本画倶楽部・ひまわり会は休止中。社交ダンス・卓球・カラオケクラブ・童謡コスモスの会・は活動を終了しています。



■コスモスの会

■境総合文化センター 平成27年1月17日

コスモスの会は女性コーラスで主に童謡を歌う会で、毎週月曜日に集まって、柳澤祥恵先生の合唱指導とピアノ伴奏で格調高い合唱曲や童謡を歌っていました。会員は二十数名、平成27年1月17日には第10回伊勢崎市生涯学習大会のアトラクションとして境総合文化センターで演奏しました。

■切り絵の会

当初、膳勝美さんの指導のもと切り絵の会が始められました。宮前会館で集まり月2回研鑽を積んでおります、隔年の作品展には作品が多数並べられ、相対的に出品数が少なくなった中、力作が展示され会場をにぎわせておりますが、現在は休止中です。



■膳勝美さんの作品

宮前町ダンス愛好会



■平成8年6 会員の皆さん(旧宮前会館)

講師 会長 堀田 修也
講師 樋口美智子

終戦後は楽しいことや娯楽は少なかったが、昭和22年23年ころは、進駐軍の置き土産のジャズ、ラテン音楽のリズミカルなサウンドに若者は惹きつけられ、大手町には銭湯を改装してダンスホール「ニューランド」が開店ダンス人口も増えて「メトロ」「フジャ」「並木」「おこのぎ」が次々とオープン、ホーナー楽団の生演奏でマンボ等ラテン音楽を軽快なリズムで演奏しダンスホールは賑わいました。

時は移り、生涯学習の機運が高まる中、映画「Shall We Dance?」が上映され、社交ダンスのブームが起こりました、宮前町では平成8年6月、旧宮前会館の畳敷の大広間がフローリングに張り替えられ、社交ダンス(ソーシャルダンス)の愛好会「宮前町ダンス愛好会」の会員を募集したところ28名の参加者が集まりました。

月4回ほどのレッスンを行い、秋はダンス設備のある湯西川・鬼怒川・草津・戸倉上



■平成15年新年会(鳳凰殿)

山田のホールでの一泊の親睦旅行、年4回程は前橋、本庄、太田や市内のホールへ送迎のマイクロバスでパーティーと、楽しいレッスンを続けてきましたが、平成24年8月、16年間の幕を閉じました。(堀田修也)

宮前町大運動会

昭和55年山田稔区長の時、殖蓮第二小学校を会場に、第一回宮前町大運動会が開催されました、小さい宮前町でも殖蓮第二小学校全校で開催されるプログラムとほとんど同じ内容で開催されました。町内を赤城団・榛名団・浅間団・妙義団と四つに分けて応援合戦をして対抗戦を楽しみました、少子化の今と違って子供は多かった時代でも、小学生たちは席に座る間もなく出ずっぱりの状態で景品を取り合うように出場していました。町内運動会は隔年秋に開催しましたが、平成4年第7回柳澤武男区長をもって終了し、以後は隔年の納涼祭に変わっていきました。

■第5回のプログラム

秋冷爽快の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて町内あげての大運動会を下記の通り開催いたしますので、ご家族揃って多数ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

昭和63年10月吉日

宮前町区長 嶋田嘉一
運動会実行委員会

第5回

宮前町大運動会プログラム

日時 10月16日(日) AM8:45~PM2:30

雨天のとき10月30日(日)

会場 殖蓮第二小学校校庭

NO	種 目	出 場 者	担 当
1	開 会 式	全 員	桜 沢
2	ラ ジ オ 体 操	全 員	北 本
3	徒 競 走	幼 小 中	桜沢澄
☆4	ス プ ー レ ース	中 1 以 上	井 上
5	障 害 物 競 走	小 4 以 上	小林し
6	ボ ー ル ド リ プ ル 競 走	年 齢 制 限 な し	小 林 内
7	バ ン 喰 い 競 走	幼 以 上	中 畑
☆8	百 足 競 走	中 1 以 上	金 井
9	親 子 競 走	小 6 以 下 一 般	増 田
10	ゲ ー ト ボ ー ル ニ ア ビ ン 競 走	年 齢 制 限 な し	城 田 永
☆11	リ ー ム こ ろ が し	"	須 藤
12	自 転 車 お そ り 競 走	"	堀 田 修
13	ヨ ー ヨ ー つ り 競 走	小 6 以 下 一 般 (女)	北 本
14	民 謡 お ど り	老 若 男 女	井 下
15	つ な ひ き	中 以 下 一 般	飯 田
16	二 人 三 脚	中 1 以 上	下 田
☆17	玉 い	中 3 以 下 一 般 (女)	下 城 正
18	縄 と び 競 走	小 1 以 上 一 般	須 藤 城
19	三 輪 車 競 走	小 2 以 下	下 井
20	借 り も の 競 走	中 1 以 上	上 野
21	マ ト 当 て 競 走	年 齢 制 限 な し	石 野
☆22	対 抗 リ ー	各 団 代 表	田 沢
23	閉 会 式	全 員	桜 沢

※ NOの☆印は対抗戦です。

※ 自動車での会場乗り入れは禁止です。

■柳澤区長あいさつ



宮前町の東日本大震災被害状況

平成23年3月11日午後2時46分地震発生(震度5弱)。

住宅被害(屋根瓦)38件・非住宅(屋根瓦)5件・他に塀・石灯籠等々3件。

赤城神社古碑殿内の延徳二年銘、六地藏(群馬県重要文化財)が横転してしまい、宮前会館の調度品・天吊りエアコンも破損散乱状態でした。



■住宅被害(屋根瓦)



■古碑殿内の延徳二年六地藏が横転

「つきあがるような突然の振動で様子見をしていたが、これはあまりにも大きい地震と察し、庭先にとびだしカーポートの柱に身を寄せる。天地が動くとはこのことであつた。電線は上下左右に揺れて前の家の屋根瓦ぐしの部分が見ているうちにゆっくりゆっくりと崩れ破損していった。」震度5弱は、1923年関東大震災以来最大級の地震といわれた。

■宮前町自主防災訓練

東日本大震災を受けて、平成25年10月27日(日)宮前公園において自主防災訓練が行われました。参加者…実行委員、一般住民79名、伊勢崎消防署・三分団18名。

煙道訓練・消火訓練・簡易担架作り・楽しい防災クイズと、貴重な体験をして学びま



した。救急救命処置訓練(心肺蘇生法及びAED取扱い方)も全員参加で行われました。

大震災も予想されることから参加者の皆さん、真剣に取り組んでいました。

宮前町の農業

今は都市化が進み農耕地も少なくなって住宅地になってしまいましたが、以前は宮前公園になっている地域「北浦田んぼ」で、米麦の栽培が盛んで、足利県道から北を望むと、水田が広がっていて遮る建物はなく、赤城山を背にして両毛線の列車が通るのが見えたものです。畑では主に野菜が栽培されましたが、伊勢崎銘仙の盛況に伴い年に何回も蚕を育てて繭を出荷するほど養蚕が盛んで桑畑が多かったです。

右の写真は現在宮前会館の駐車場になっている、柳澤たけさん宅ですが、ヤグラ付き総二階建ての近代養蚕農家建築の典型的な建物です。お蚕さんが大きくなると人間の寝るところがなくなって、一緒に寝起きしてお蚕を育てました。農閑期には機屋(はたや)から賃機(ちんばた)と称して主婦は機織りをして現金収入を得ました、女性が強い(かか一天下)の風潮もこの辺も由来している一因と思われます、このように農業と地場産業の銘仙織物とは切っても切れない間でした。

そのうち銘仙織物産業が衰退し養蚕も少なくなっていきました、昭和



■田んぼの中の通学路、建物は中村石材店？

56年の区画整理で大規模な宮前公園が出来て、462号線が開通して農地はほとんどなくなり、現在では農業を営んでいる世帯は少なくなり、農村の面影はなくなりました。「下植木ネギ」がテレビでも紹介されて有名になりましたが、宮前町では小林 洋氏が栽培を続けています。

殖蓮中学校チャレンジウィーク

群馬県では、生徒自らが生きる力を身に付けられるよう、自分の将来について夢と希望と情熱をもって考え様々な体験活動に取り組む機会を設定するため「ぐんまチャレンジ・ウィーク」推進事業が設けられていました。

また、本事業の実施をとおして、学校・家庭・地域社会の連携を一層深め、地域の日常そのものが高い教育力を持つものであることを改めて認識する機会とし、もって、地域の子どもを地域で育てる機運の醸成に資することが趣旨でした。

殖蓮中学校チャレンジ・ウィークは、2年生の生徒と教師が心一つにして取り組み「勤労・奉仕・地域とのふれあい」をテーマとして町内自治会をはじめとする地域の人々の経験や技術を生かして体験を推進することでした。

平成14年11月11日(月)～11月15日(金)まで午前8:45～12:00・午後13:00～16:15まで連続5日間。

「実施のねらいと内容は」

1. ボランティア体験活動・・・生徒自ら考えた地域への奉仕を行なう。
2. 勤労体験活動・・・公園の施設整備、宮前公園と赤城神社の清掃活動。
3. 地域文化活動・・・赤城神社、天増寺の地域文化を学ぶ等々でした。

初年度は、手探り状態で生徒8名を町内役員12名で実施しました。情報量が少なく、うまく活動されていなく難渋しました。

2年目平成15年11月13日～17日

3年目平成16年11月13日～15日

3年間は連続5日間でしたが、4年目の平成17年～平成22年まで6年間は地域活動の日は2日間となり、平成22年を最後に9年間に及んで地域における活動は終了しました。

「地域を知る」「地域に愛着を持つ」「地域と共に生きる」という学習効果は初期の目的が達成されたのであろうが、町内の役員の時間と労力の負担は大変なものでした。



■作業に汗をかく殖蓮中学校の生徒たち

宮前町の医療・福祉介護施設

原内科医院（院長 原 勉）
（副院長 原健一郎）

宮前町区画整理事業の整備が進み、昭和63年12月宮前公園南の現地に開業、以来地元宮前町をはじめ近隣住民のかかりつけ医として親しまれております。

- 内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- アレルギー科
- 禁煙外来



ニチイケアセンター伊勢崎

住み慣れた環境で暮らしを続けていただくため、「お客様本位」の在宅介護を目指しております。

〈サービス内容〉

- 訪問介護
 - 通所介護(デイサービス)
 - 居宅介護支援
- 2000年より事業開始



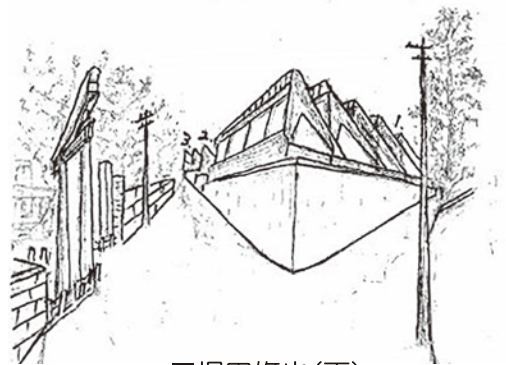
医療法人(恵仁会)大谷医院

大谷家の墓碑によると井下成政の長子、大谷順齋は明治5年医業を開業(故あって大谷氏を名乗る)順齋の子大谷岱一は、大正11年采女村から宮前町に移転開業、という記録があります。岱一の次男震也は内科を開業、妻女節子は眼科を開業しました。

永年殖蓮小・中学校の校医を務められ、夫婦そろって叙勲を受けました、平成16年3月閉院。その子女明子は居宅介護施設「小規模多機能型ハウスおおたに」を開所しましたが死去のため廃業しました。

■伊勢崎織物の歴史

伊勢崎織物の歴史は古く赤城神社にある石造多宝塔は、2基ありまして、観応2年(1351)と貞治5年(1366)の建造、銘文の最後に造立者として残されている秦清吉、同清才、同貞吉、同重吉の4名が当時の機織の最高技術者とも考えられる人達で、当地に多宝塔を建立するなど織物がこの地方に深く根付いていたことが忍ばれます。



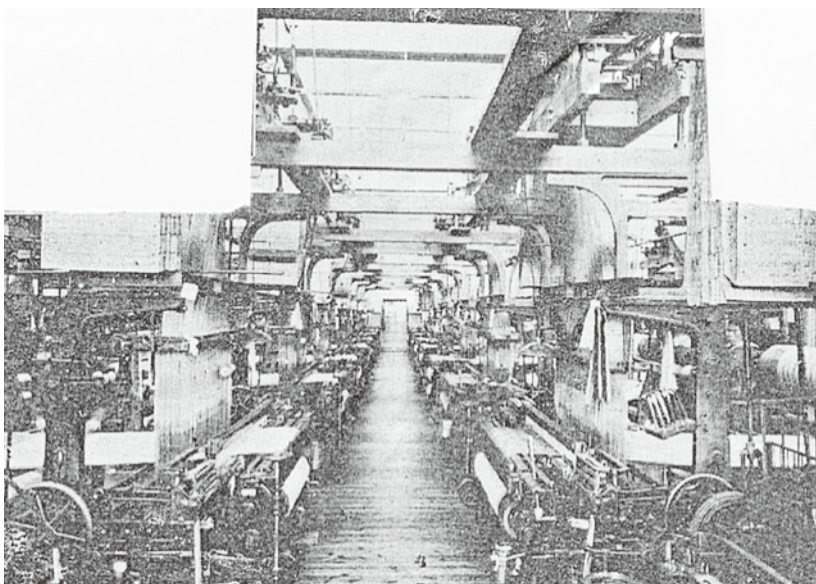
■堀田修也(画)

これらの石造美術品は1括して県の重要文化財指定(昭和35年12月23日)を受け銅板葺覆屋「植木宮古碑殿」に保存されています。機織の神は倭文神社(東上之官町)旧郷社で祭神は天羽槌男命応仁年間(1467~69)といわれています。

元亀年間(1570-73)頃玉繭、屑繭から生糸に製糸し染色織布までの1貫行程を農家が自給生産してきた太織りが製品化され、即ち家内企業です。享保年間(1716-36)の頃には伊勢崎に市がたち、ここで伊勢崎縞、伊勢崎太織の名で取引されるようになり、これがいせさき銘仙の起源とされています。この頃は糸質も改良を重ねた野蚕糸でありました。

染色業は昭和30年頃までは紺屋と言われていました。藍、紺染め仲間の人達が古くから染色の神としてあがめられてる愛染明王が祭られてる、曲輪町(泉町)の曹洞宗同衆院の愛染堂は愛染講和讃が詠まれています、その講は殊に色染願う身は日夜信念おこたらず、彩光なお増さんと紺屋の同士が協力して、愛染堂を造営したと伝えられています。

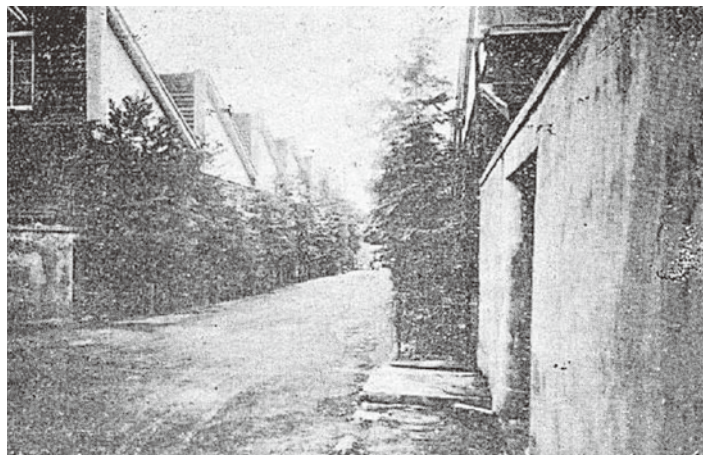
明治9年(1886)に設置された染色講習所は地場産業に役立つ人材の育成や染色技



■井下織物工場内 広巾織機並列 昭和初期

術の向上には大きな足跡を残し、地元産業の間では非常に喜ばれていた為に、組合員の大勢に同乗し学校設立の方向に進んでいきました。明治29年4月28日に文部省の認可を受けた、染色講習所の後をうけて組合立伊勢崎染職学校として授業を開始しました。幾多の変革をへて県立工業学校は戦後の昭和24年学制改革により現在の県立伊勢崎工業高等学

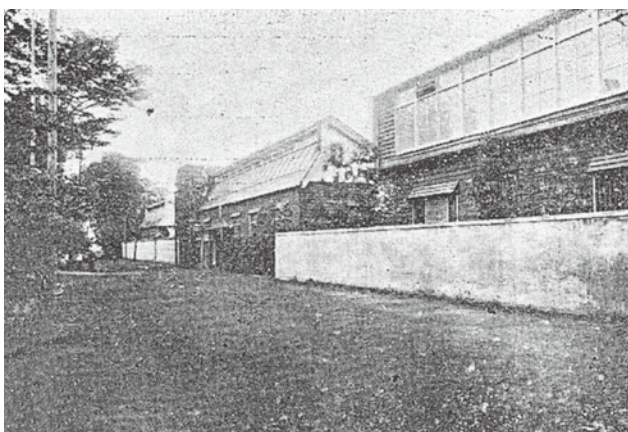
校となりました。文献によると江戸時代の技術は磨かれて、染色も無地あるいは草木染めによる素朴な縞柄であった、無地縞物から変化を求めて括緋板緋などが生産され始めたのは江戸後期で型紙による捺染加工法の進歩により、韓総緋、併用緋など、多種にわたる緋技術が応用され明治年間、銘仙の名称が生まれると伊勢崎銘仙として世に広く知られるようになった。殆んど手織り



■井下辰雄 のこぎり三角屋根の織物工場
赤城神社方面より南を写す

機で織られたが明治末期に動力織機が導入され、従来の手織り銘仙の他に 文化銘仙、模様銘仙などが生産されるようになり、大正中期には第1次の黄金時代を迎えた。第2次大戦後から、いち早く復興したのは手織り銘仙であり昭和30年ころ第2次の黄金時代が到来した。素材面での変化はあったが今も、いせさき銘仙の年産額の過半数は手織り銘仙が占めております、その色合い感触のよさなど一般の人気を集めています。名産いせさき銘仙は下植木地区が中心的な生産拠点となり宮前町には地場産業に貢献された賢人、先人がおられました、下城彌一郎氏、下城虎次氏、井下辰雄氏、柳沢正雄氏等は明治以降からの賃織り組織による生産品はかなりのものでしたが、時代の推移で、力織機を導入に至り、即ち鋸屋根工場が赤城神社の表参道(市道27号)南側に下虎織物、柳沢織物、井下織物、とのこぎり工場が群居してる景色が見られるにいたりました。

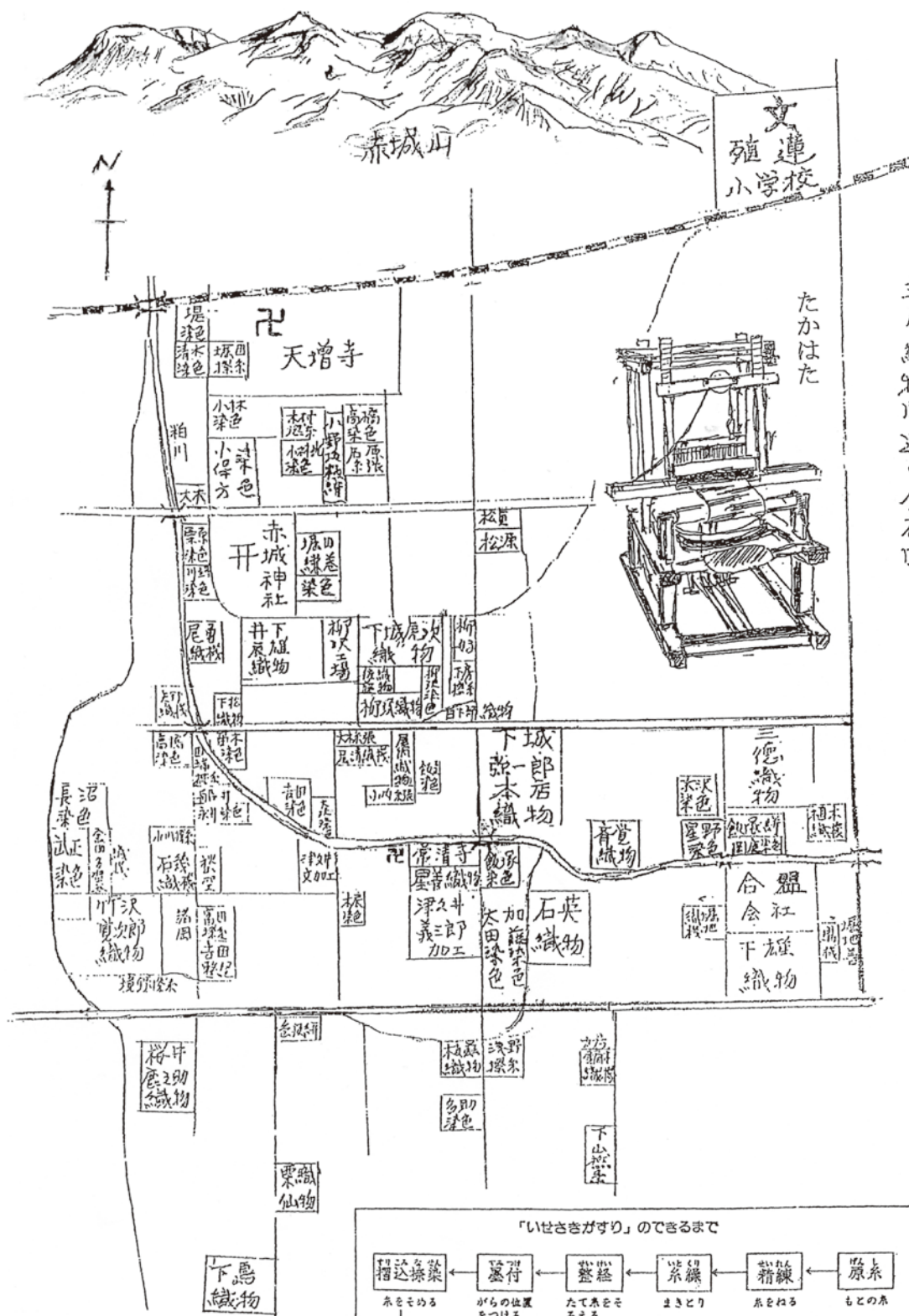
井下のこぎり三角屋根工場の冬の暖房施設は、蒸気ボイラーでした、朱レンガ造のボイラー室、乾燥室、大煙突を通して蒸気暖房で、女工たちに喜ばれたといひます。



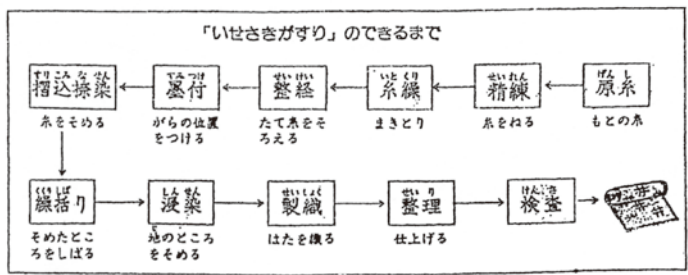
■赤城神社表参道より東 井下織物工場
柳沢織物工場
下虎織物工場



■赤城神社表参道東より 正面右が赤城神社



昭和初期の下植木地区
主な織物問屋の分布図



■空襲当夜と翌日の終戦・天皇詔書について

昭和20年8月14日(1945)夜8時前頃、警察署のサイレンが鳴り続けていた、ラジオを点けてみると関東軍管区情報、関東地方警戒警報発令と鳴っていた、すると間髪と入れずに空襲警報が発令された。東の夜空に雲の切れ間から幾つも機影がサーチライトの光線や照明弾は目が眩む程の明るさの中84機の大型四発基爆撃機B29が房総半島東岸より侵入し伊勢崎空襲と熊谷に挑みました。玄関脇に大正式で木製箱型の立話電話機が長方厚板に取付けられてるのを父が防空壕へ持込む為に バールで強引に取りはずした、この防空壕は「板船」といわれて板舁を水に浸けて置くプールのことですが、板舁染色業には板船「プール」は必要設備でしたので長方形(3~4m)が1コで15コ程のコンクリートのプールの地下に大きい防空壕を掘りました。以前から壕には3、4の家財は搬入して置いても人の15人位は入れる余裕がありました。壕のある庭から西南へ神社の木影を通しての目撃は、中心街、織物組合会館、工業学校、宮前橋の東側一帯は焼夷弾の爆発で火焰に包まれるのを茫然として見ていた、中型焼夷爆弾が不発で私の家の巻場工場の屋根裏を突き破ってドスンと大きな音がしたのを 壕に入った家族、寄宿者の男女従業員が何の音かと怖がっていました。後日の話しですが神社の社務所に海軍の工作兵が10人程寄宿していました。

昭和町の桐生県道沿いに乾燥場と松根油採油所が 建ち並んでいまして工作兵は採油所で業務に励んでいまして、松根の大きいのが神社の表参道や天増寺の参道にごろごろ置いてありました。



伊勢崎市上空から撒かれた米軍のびら (裏と表) (昭和20年7月31日撮影)

■米軍機より上空から撒かれたビラ

「板船」といわれて板舁を水に浸けて置くプールのことですが、板舁染色業には板船「プール」は必要設備でしたので長方形(3~4m)が1コで15コ程のコンクリートのプールの地下に大きい防空壕を掘りました。以前から壕には3、4の家財は搬入して置いても人の15人位は入れる余裕がありました。壕のある庭から西南へ神社の木影



■一発の親弾から八つの巣状の48発の焼夷弾が300m上空でバラまかれる。

その不発中型焼夷爆弾は直径35センチ長さ1,25メートルで海軍の工作兵の4人がリヤカーで処置してくれました。伊勢崎が攻撃目標とされたのは(1)中島飛行機の関連工場が存在、(2)平坦部の都市であること、(3)市街地が密集し爆撃による燃焼性が高いと判断された為です。桐生、足利は山地に近接してるためにレーダー爆撃に障害が生ずるので免れたとの話です。この空襲で工業学校の本館校舎2階建、近設校舎、全焼のため在校生は焼け跡整理に頑張り、私もその1人でした。

宮前橋の桁下を防空壕代わりに避難していて、運悪く機影をみるので首を突き出した時に焼夷弾が直撃して、即死したとの現場を橋上からみました。空襲の被害、宮前町は死者1人、罹災家屋16戸、罹災者85人、昭和町は罹災家屋2戸、罹災者9人、が被害の概要です。

第二次世界大戦(大東亜戦争)は昭和20年8月14日～15日未明に悲惨な思いをし、翌日15日昼正午からラジオで天皇陛下の終戦玉音放送が流れましたがなかば信じられなかった。直後の状況では終戦の為に、伊勢崎は灯火管制は解かれても、被災のため電気は停電、焼け跡は無惨な地獄絵さながらでした。

■赤城山(大地の恵みを味わう)

粕川は赤城山を代表する川ですが、赤城山は複式火山、最高峰、黒桧山(1828m)裾野は広大、標高(90m)位までのびている。周辺各地から見る角度によって山の姿は大きく異なります。

粕川流域から見るのが均整がとれて一番美しいと言われていています。西から順に鍋割山、荒山、地蔵岳、長七郎山、黒桧山と続き、長七郎山の火口に水が溜まり小沼となりました、源流としてミズナラの原生林であるオトギの森、白樺の林



から垣間みながら経て、外輪山の切れ目から真直ぐ急斜面を南下します。粕川大滝(落差50m)を経て、粕川村に流れ国道353号線以南は扇状地となり傾斜は緩やかとなります。

赤堀町、波志江地区、下植木流域地区を貫流し広瀬川、利根川に合流する。金長35km、標高差1400m、の急峻な一級河川です、赤城山は名水の器、高貴な水の湧く 馳という語源を持って、赤城のアカは色彩の赤でなく仏教語の浦もから来たもので仏や貴賓に献上する水の意味、城はうつわ、の意味で闕伽(アカ)を入れる器で、高貴な水の湧くところだった。

御神水で爽やかな天然イオン水で、雷雨で放電された電流が山や川に蓄電されイオン水を作る多くのミネラルを含む天然イオン水で、ご神水は薬水にもなります。お茶を点てるにもコーヒーを飲むもご飯を炊いてもミネラルウォーターです。

粕川水系は飲み水だけでなく水質が軟水のために発着性が良く、紺屋(染色)が下植木地区を縦貫流する、粕川沿域活気の現れの紺屋の煙突が立ち並ぶ活況を呈しました。

■女子寮(寄宿舎)大火災

宿組の織物工場で宿組下虎織物工場の寄宿舎が深夜に炎上、消防車のサイレンが数ヶ所から聞こえている。

昭和15年2月27日当時水道の消火栓は無く、粕川は流れていても冬期の為に少水量なので水源を求めて消防車は右往左往していた。

赤城神社の表参道に停車してる何台かの1台が住人に案内され堀田紺屋(染色)に水量豊富の深井戸があるのを知っていたとの事で工場の庭にエンジン音を響きかせながら、ホース15mほどを消防士が投げ入れた。消火活動は、



1時間半以上も放水消火しましたが井戸の地下水はこんこんと湧き出ているので、皆が感心しました。

しかし逃げ遅れた工女達7人は焼死体で見つかりました二体は中組(東本町)の姉妹でした。寄宿舍は明治の瓦葺二階建木造建築で学校の校舎かと思える程の建物でしたので、凄ましい火勢で後の語り草でした。

天増寺石門の東端境内に7人の霊を慰め永遠に供養になるよう7名の名を刻んで観音像がまつられています、御守護般若心経の念仏が唱えられ建立されました。

■カスリン・アイオン・キティ台風3年連続の未曾有の大洪水

昭和22年(1947)9月14日から15日にかけて、関東地方を直撃したカスリン台風は、雨量650ミリで襲い広瀬川、粕川に大水害の爪痕を残した。

午後3時30分から4時頃でしたか興味本位で水位がどのくらいかなと、私は天増寺橋上で長靴を履き濁流に引き込まれる思いを抱きながら見ていたら橋桁とピーヤに大きな流木が引掛かり、あっというまに濁流が足元に襲ったので5、6人の見物人達と一諸に慌てて逃げましたが、橋の東側で桐生県道に沿っての昭和町や宮前町一帯が見てる間に浸水、増水一挙に激流となり、川岸の家屋は勿論町内家屋は床上、床下浸水の損害は甚大でした。

台風は3年続けて襲来しました、昭和22年のカスリン台風、23年のアイオン台風、24年のキティ台風ですが、占領軍のGHQの支配権下の時期だったので気象、気候にも及んで台風も女性の名前が付けられました、被害家屋は桐生県道北側で橋寄りから小池床屋、飯野傘店、大木紺屋、井下駄菓子屋、県道南側で橋寄りから細井巻屋、荻原鉄工場、角田ブリキ店、小林宅、栗原染色等が濁流に吞まれた家屋、半壊で残骸を残した家が水かさが増しての水圧で傾く様は、争い果ててのちぎり木です。

現在の宮前橋の粕川西地域で宮前町の一部が市の町内行政改革で昭和町と東本町とに変わっていますが、65年前は宮前町でした。

見竹整経、高橋染色、尾内機織も流壊し流失の被害を受けました。町内の橋で天増寺橋は辛うじて難を免れましたが宮前橋は東側岸と橋桁が半壊流失し、植木橋は本体の鉄筋コンクリートは流失しませんでした、市道232号が通る橋南側岸が、急流と溢水で決壊し通行不能となった。

市内での死者47名、重傷者73名、流失家屋252戸と甚大な被害でした。

伊勢崎にするどい爪痕を残して去った台風は両毛線の鉄橋を始め粕川、広瀬川の橋梁流失、堤防決壊、田畑流失等で、市内の機業者、染色工場、関係業者ら損害も莫大なものでした。

直ちに関係官庁へ災害救済法での緊急地方道路及び河川の拡張工事が昭和24年4月に、大規模河川工事は昭和26年(1951)3月には川幅が3倍になり堤防も一級河川らしく高く大きな立派なもので、現在はサイクリングロードとして市民の健康保持に役だっています。

植木橋は昭和37年完成し、宮前橋は、昭和62年5月10日に竣工しましたが平成23年の秋に、老朽化による不備を再構築し、二つの橋が立派に交通に役だっています。

また両毛線の鉄橋は昭和22年9月の台風で決壊、流失しましたがJRは直ちに復旧開通しました。26年に拡幅工事により鉄橋が長さ53mで3倍の長さに架け替えられました。

平成24年3月伊勢崎駅と両毛線の高架工事のため鉄橋も三度も架け替えられましたが見事な高架鉄路となりました。

■上州気質の春祭り 家内安全無病恩災の鎮守様 赤城神社

赤城神社は地域住民の信仰厚く宿組の宮前には境内、鳥居、社拝殿が座し旧村社として下植木地区の鎮守様として崇められています。

春季大祭4月15日、八坂神社7月26日、秋季大祭10月17日、秋葉神社11月27日、新年祭1月元旦、祈年祭2月1日、と年行事として神事を行っています。

春の大祭は前夜の宵の刻に墨字で御神燈と筆で書いた灯籠が、幾つも老樹齡の桜並木に花が満開に咲き散らす表参道に灯り、影の絵と映り歌舞



伎の舞台のような幻想的な域に達していたのを思い出しました。

翌日の当日には道幅の広い表参道は屋台の店、露天商、が、駄菓子屋、玩具屋、あめ細工、わた菓子、金魚屋、たい焼き屋、アイスクャンデー、等が並び、境内では神楽殿が2階式の舞台で神楽の笑いの劇で、おかめとひよっこ物語、動物物語で狐と狸が演じられていた。土俵では地域の子供達が相撲大会で5人勝ち抜き戦や個人戦が行



われ、私も少年期に5人抜き戦に参加し線香花火のように一緒にくるくる回りながら寄りきりか、土俵割りで勝ち越し賞品に庭の竹箒を貰いましたが、四股名が花火山と付いてしまいました。

社務所の庭では武道の模範演技がありまして、剣道の有段者が数人武具を身に付け試合を見せていて、又師範代の先生が自身の日本刀で実戦演技を披露し、

弓道場では的を狙う3人の白装束の射手の有段者が実技を見せていました。

境内も西側の道(市道9号)東側の道(市道8号)も表参道(市道27号)こども達はもとより、老若男女が多勢繰り出して賑やかな楽しい思い出が残る春祭で今でも記憶に残っています。

堀田 修也 〈昭和5年生〉

昭和56年伝統工芸士(捺染加工部門)に認定される。

- ・長寿会会長
- ・交通安全協会宮前町支部長を歴任

広報いせさき平成26年12月号「未来へ伝える伊勢崎銘仙」特集で伝統工芸士として紹介されました。



粕川の水車・亀・七つ目・あゆ

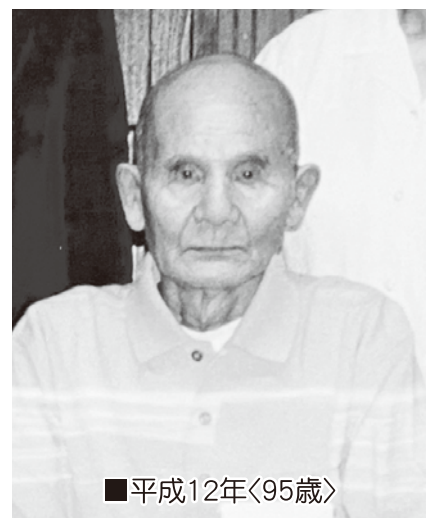
宮前橋の上流に堰があって、滝の様に水が落ちていた、ここが中組(東本町)の石原水車の取水口になっていた。今の常清寺の北西の所がくぼ地で海老谷戸と呼ばれ、かつては粕川が南流した跡だと考えられる。

ここに水車があったので東方の高台は車山と呼んでいた。川幅はせまく水車の所から北東へカーブして根岸政雄さんの家の南を東へ流れた。現在の植木橋より70m北に橋があり尾内甲子郎さんの北側にあたる道路の地下に昔のコンクリート橋が埋められている。川幅は古地図では南北八間だったけれど、根岸さんちの川端に柿の大木が川へ乗り出していたので、中組(東本町)の子供が車山から、色々な手(方法)を考えて、こちら側へ渡って来る事が出来た位だから川幅が想像できる。

川の水は澄んでいて太いうなぎや、一尺(33cm)もある七つ目がいた。稲刈り前に川のガクラ(穴)に足を入れるとトウゼイナマズが足にかざるし、アユ・サイ・ガレンバヤ等々もいた。カーダナ(川棚)が作られて川で洗いものなどをした。朝早く川棚へ行くと、ボタンボタンと川面に幾つもの音がして何匹も亀が逃げていった。毛がにもいた、明治43年の大水で常清寺の北の車山が大きく欠け落ちてから、地形も大きく変わった。その後河川工事があって川幅が広がり、常清寺のもとの位置が粕川の中だったと説明しても信じられないと思う。

○殖蓮史談会「殖蓮風土記上巻」より引用 (根岸政雄さんより聞き取り)

根岸政雄さんは、養蚕農家の2階づくりの大きな家で、文面にあるように昔は庭がすぐ粕川でカーダナで洗い物をしたりしていたそうです、カーダナがあったからか、根岸さんではなくかわばたんちで通っていました。馬の愛情物語で植木橋の所で南から来た、傷ついた母馬を取り押さえたのは、政雄さんの先代梅蔵さんです。根岸政雄さんは近所の人にお茶飲み話に、昔のはなしを良く語ってくれました。誰にも気さくにはなしてくれたかたりべでした。



■平成12年<95歳>

宮前橋のこと

宮前町はその昔下植木字宿組と云い、戸数は34戸。伊勢崎への通路は一本橋通りという三尺巾の道があって、東部七八か村の人が通るのだった。

粕川の巾はその当時4間位い。橋は大杉を二つ割にして一枚掛けた。元の太いほうが三尺位で末の方は二尺程、明治八年に掛けて、四十三年迄渡りました。そのうちに諸外国との貿易も広く盛んになり、便利なものが出てきた。人力車・荷車・運送車が出来ても、何しろ一本橋では通ることができない、そこで町内役員等が発起人になり組内は申すに及ばず、伊勢崎町の大商店からも寄付を貰い、土地を買い上げ、橋を掛かる時には組中総出で、無銭人足で道路造りに従事し、たちまちのうちに開通の運びとなりました。組内は云うも更なり、他村の人達まで大へん喜びました。開通は明治43年でした。



■尾内幸次郎(1869~1968)

その後、昭和十四年足利伊勢崎間の新道が宮前新道を通るようになり、道巾も少し

広くし只今の立派な道路になりました。(中略)

昭和二十年十四日の夜大東亜戦争最後の戦災にあい宮前町では十四戸が焼失、二十二年九月一五日にはカスリン台風の為、粕川が大



■昭和22年カスリン台風以前の宮前橋
〈油絵/飯島敏三・尾内健次氏所蔵〉

洪水となり、元の下植木分では、宅地に水の揚がらぬ所は少しもないというほどで宮前町だけでも流失五軒、半壊が二軒あり、そのほか大変な被害を受けました。

この二度の災害については、町内一同の驚きは、実に何とも申様もない有様でした。

この時宮前橋は鉄筋コンクリートの立派な橋でしたが、大洪水のために両方の橋詰めが壊れて不通となりましたが、その後河川改修の大工事が始まり、宮前町では移転が十一戸という大仕事でした。昭和二十五年八月十八日現在のように、河も橋も立派に完成しました。

橋の長さは二十六間余・巾九尺余という鉄筋コンクリートの橋になり、戦災や洪水の損害にもかかわらず、割合に復興致したのは、誠に有難い事です。明治二〇年頃の三十四戸が今は二百四十戸というドエライ発展をとげたのであります。(原文のまま)

「今昔思い出草」より 尾内幸次郎著

昭和40年9月15日 伊勢崎郷土文化協会発行



天神池(わらじ池)のこと

天神池には次のような伝説がありました。

駿河(静岡県)に大男がいて、富士山をみるなら、甲斐(山梨県)で見るより駿河が良いと、大声でお国自慢をしていしました。そこへ関東から来た別の大男が「関東平野には四つの富士山があるから行ってみろ」と言いました。駿河の大男は興味を持ち武蔵の国(埼玉県・東京都・神奈川県)から利根川をひとまたぎして伊勢崎に入りました、途中足に怪我をしたので権現山に腰かけて、八寸町の御手洗池で手足を洗い、天神池でわらじを脱ぎました。富士山を数えたが三つしかなかったのでわらじを脱ぎっぱなしにし、赤城山の鈴ヶ岳へ向かいました。三つの山とは榛名富士・浅間富士・日光男体山です。この大男の重みでくぼんだ湿地が天神池、あるいは履いていたわらじに由来してわらじ池と呼ばれていました。秋になると蓼(タデ)が繁茂し真っ赤な色に染まるので、大男が怪我をして流した血の色だといわれていました。



(殖蓮史談会星野正明氏
による)

天神池(わらじ池)は現在の宮前公園内、南西の水田の中あたりにありました、田んぼのあぜ道の脇の池でクワや農器具を洗ったりしたところでした。ここから新田用水を越え、桐生県道

文化会館前の信号南迄、北東にななめに、ほぼ直線に続き、殖蓮中学校の通学路にも使用していました。

故星野正明氏は郷土史家。東本町に居住、殖蓮史談会を拠点に伊勢崎市、主に殖蓮地区の歴史や文化、出来事を丹念に調べて「殖蓮風土記」上下巻をはじめ多くの著書や冊子を発表してきました。その功績により、群馬県総合表彰、群馬県功労者表彰、そして国の大臣表彰も受賞されました。

みやまえ新聞

みやまえ新聞は平成12年7月6日から発行しています。

毎月1日と16日広報がとなり組を通じて配布されますが、広報の配布に合わせてみやまえ新聞不定期ですが発行されています。

一番身近な町内の情報誌として町内行事や各団体のお知らせ等カラー写真を交えて発行を続けており、創刊号はB5版見開き4ページでしたがそのうちA4判裏表に変わりました。

最新号は令和4年2月第85号になります。



- | | | | |
|-------|---------------|---------|---------|
| ■第1号 | (平成12年7月)~15号 | 区長 嶋田治郎 | 編集 尾内本典 |
| ■第16号 | (平成18年4月)~25号 | 区長 尾内本典 | 編集 尾内本典 |
| ■第26号 | (平成22年7月)~41号 | 区長 高柳保男 | 編集 高柳保男 |
| ■第42号 | (平成26年4月)~55号 | 区長 山口浩一 | 編集 櫻澤孝明 |
| ■第56号 | (平成28年4月)~76号 | 区長 眞塩 優 | 編集 櫻澤孝明 |
| ■第77号 | (令和2年5月)~ | 区長 嶋田高之 | 編集 櫻澤孝明 |

人物「下城彌一郎」



全国に名をはせた伊勢崎銘仙は下城彌一郎の活躍によって近代化を遂げ、県内では桐生市に次ぐ第二の織物産地として地位を確立しました。地元では下城本店で知られています。

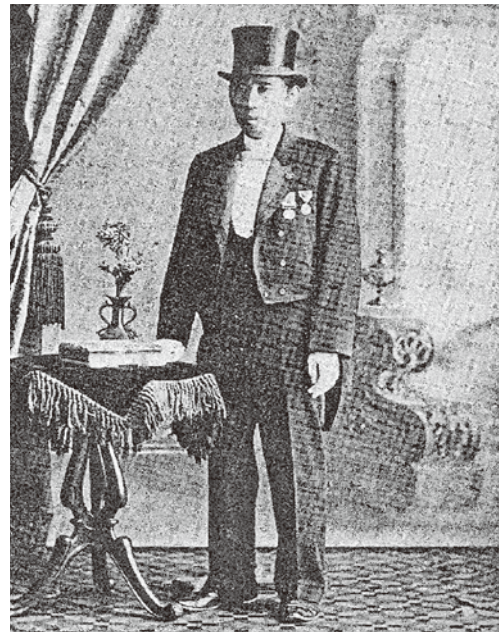
下城彌一郎は嘉永6年(1853)下植木(宮前町)に代々伊勢崎藩の機業取締の家に生まれる、父は近一郎、幼少にして石原閑之丞に就き筆学を修め、文久元年中組、長尾一雄に従い和漢の二学を学ぶ、慶応元年世良田村菊池憲七郎の門に入り算数を修行する。熱心に勉学に励んだ彌一郎は若くして伊勢崎織物の発展に力を尽

くした。

明治維新による経済の変動に伴って地場産業である伊勢崎太織は大打撃を受けた。そこで先頭に立ち指導力を発揮、明治14年伊勢崎太織会社を設立し、科学染料が出回って伊勢崎太織は一時評判を落としたが、太織会社で染色の基準「伊勢崎太織会社申合規則」を作り、染色及び伊勢崎織物の信用を高めるために組合検査証を製品に貼付した、太織はのちに伊勢崎銘仙といわれるようになった。



■織物会館内の顕彰碑
(市指重要文化財)
明治43年9月建立



の信用を高めるために組合検査証を製品に貼付した、太織はのちに伊勢崎銘仙といわれるようになった。

さらに19年には染織講習所(現在の伊勢崎工業高校)の開設に際して、私財を投じるなど献身的に努力した。明治31年伊勢崎織物同業組合を設立し13年間組合長を務めた、また政治家としては明治27年県会議員、明治32年から4年間第10代群馬県県議会議長を務め、業界の振興と地域の発展にも尽した功績は大きい。

明治38年(1905)没、享年53歳。

その功績をたたえ曲輪町織物会館の裏庭園に

森村熊蔵と共に顕彰碑が建っている、高さ3.7m巾1.5mの仙台石の立派なもので市の指定重要文化財になっています。

墓地は天増寺、天増寺には伊勢崎藩主を務めた稲垣長茂(慶長6年1601)～元和2年1616)と歴代稲垣家の墓所があり下城家の墓はその南隣りにある。

まさに宮前町にとって下城彌一郎は突出して唯一無二の歴史に残る偉人でした。

長男 平馬は(2代目彌一郎襲名)

二男 好雄は下城支店買継部を開設

三男 彌三郎は徳江家に養子になり徳江製糸場を継ぐ(下記に詳)

四男 勝磨は(株)互盟商會を文化村に設立(3代目彌一郎を襲名)



■築170年といわれる生家

徳江製糸場は富岡製糸場とともに機器製糸の初期からの歴史を有する製糸工場で明治12年徳江三郎が創業した、徳江三郎没後の明治42年、彌一郎の三男、彌三郎が経営を引き継ぎ、佐波伊勢崎を代表する製糸場として経営にあたりました。

創業以来、約半世紀にわたって地区生糸生産量の9割以上を占め最盛期昭和3年には年間1万貫(約37.5トン)の生産を記録しました。

徳江製糸場は現在の曲輪町伊勢崎市図書館の北に位置して、現在は製糸工女が通路として利用した煉瓦トンネルが残っています。

彌一郎四男 勝磨は大正7年「互盟商會」を興し現在の新粕川橋の所に、従業員の社宅約20戸が建ち、社宅の西には「文化荘」という薄紅色のとんがり屋根のしゃれた2階建ての別荘を建て芝生の中の丸い池には噴水を揚げておりました。桐生の飯塚か伊勢崎の「互盟」かと競った有名な機屋で、近隣の農村から比べると文化的な生活環境が整っていたので「文化村」と称されました、お稲荷さんが祀られて粕川に私設の橋が架けられ「いなり橋」と呼んで、お祭りでにぎわったということです。

現在の当主下城雅之氏は彌一郎の功績を遺すため、170年経っても狂いのない巨大な梁に支えられた生家・工場兼事務所や土蔵等を当時の配電盤や貴重な建具・欄間の細工・引出し階段やあらゆる調度品に至るまで、また土蔵は敷地内から移築して敷地内に保存しており、伊勢崎織物の歴史遺産を後世に伝える強い意志が感じられ深く敬意を表します。またこの貴重な資料は富岡製糸場絹産業遺産群の一環とした公の援助協力を得て保存管理されることを強く希望します。

宮前町歴代区長 功績者

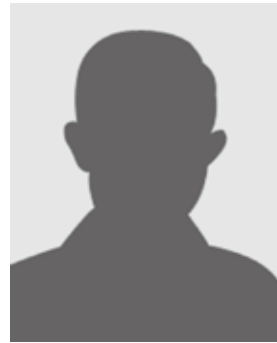
■歴代区長



初代 下城 盛次
明治16年



2代 尾内 亀重
明治19年



3代 嶋田丑五郎
明治22年



4代 嶋田新兵衛
明治25年



5代 下城 彌蔵
明治28年



6代 柳澤 直蔵
明治31年



7代 根岸貞次郎
明治34年



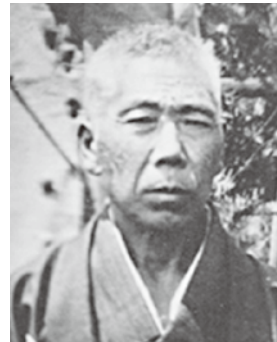
8代 根岸 兵八
明治37年



9代 飯島 澄三
明治40年



10代 柳澤 高蔵
明治43年



11代 島田 島吉
大正2年



12代 下城 榮作
大正5年



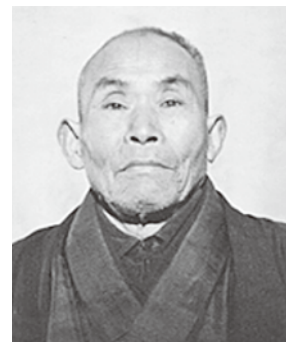
13代 嶋田 森雄
大正8年



14代 柳澤茂一郎
大正11年



15代 小林金次郎
大正14年



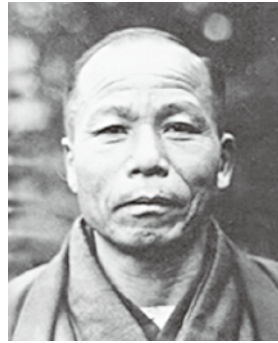
16代 島田 利蔵
昭和3年



17代 柳澤延太郎
昭和6年



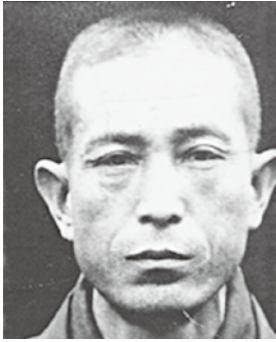
18代 井下喜代松
昭和9年



19代 柳澤幸太郎
昭和12年



20代 下城彌一郎
昭和15年



21代 下城 房二
昭和18年



22代 佐藤 十平
昭和20年



23代 嶋田宗太郎
昭和21年



24代 大澤 養次
昭和25年



25代 嶋田 光次
昭和27年



26代 高橋 石蔵
昭和31年



27代 木澤 豊蔵
昭和33年



28代 嶋田 幸江
昭和35年



29代 井下蛙友治
昭和36年



30代 下城松次郎
昭和38年



31代 尾内 清吉
昭和43年



32代 山田 稔
昭和50年



33代 嶋田 嘉一
昭和61年



34代 柳澤 武男
平成2年



35代 堀田 弘
平成6年



36代 大島 善春
平成10年



37代 嶋田 治郎
平成12年



38代 尾内 本典
平成18年



39代 高柳 保男
平成22年



40代 山口 浩一
平成26年



41代 眞塩 優
平成28年



42代 嶋田 高之
令和2年

■伊勢崎市議会議員／功績者



井下 辰雄
伊勢崎商工会初代会頭
市議会議員 副議長



嶋田 光次
伊勢崎市議会議員
昭和31年



羽鳥 基宏
平成18年より3期

歴代行政年度別役員氏名

	昭和61年	昭和62年	昭和63年	昭和64年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年
顧問								山田 稔	山田 稔
〃									
相談役				山田 稔		山田 稔		嶋田嘉一	嶋田嘉一
〃				石原市太郎		石原市太郎		柳沢武男	柳沢武男
						嶋田嘉一			
区長	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	堀田 弘
代理	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	大島善春	大島善春	大島善春	大島善春	大島善春
会計	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	下城 勇	下城 勇	堀田 弘	堀田 弘	尾内本典
書記						深澤博義		深澤博義	深澤博義
環境	下城重利	下城重利	下城重利	下城重利	下城重利	下城重利	下城 勇	下城 勇	島野敏雄
	根岸昭夫	根岸昭夫	下城 勇	下城 勇	深澤博義	深澤博義	塩谷政喜	塩谷政喜	大島正次
年金		松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎		下城 勇	堀田 弘	堀田 弘	石倉正夫
生涯学習					堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘	城田幸作
防犯委員		柳沢貞男	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎
納税		柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男		大島善春	大島善春	大島善春	大島善春
監査		石原市太郎	石原市太郎	石原市太郎		堀田 弘		高柳保男	高柳保男
〃		堀田忠作	下城敏郎	下城敏郎		中山定雄	中山定雄	中山定雄	薄波 誠
評議員	石原市太郎	石原市太郎	石原市太郎	下城敏郎	堀田 弘	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎
〃	大島善春	下城敏郎	大島善春	堀田 弘	嶋田治郎	堀田 弘	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎
〃	浅野英男	大島善春	堀田 弘	嶋田治郎	柳澤清三郎	嶋田治郎	高柳保男	高柳保男	高柳保男
〃	堀田 弘	堀田 弘	下城敏郎	柳澤清三郎	高柳保男	高柳保男	石倉正夫	石倉正夫	石倉正夫
〃	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	高柳保男	石倉正夫	石倉正夫	根岸昭夫	根岸昭夫	根岸昭夫
〃	井上喜久男	柳澤清三郎	柳澤清三郎	石倉正夫	尾内本典	根岸昭夫	中村平八郎	中村平八郎	中村平八郎
〃	菅谷英二	高柳保男	高柳保男	尾内本典		中村平八郎	日下部清一郎	日下部清一郎	日下部清一郎
〃	小林惟尾								
	山田 稔								

歴代行政年度別役員氏名

	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
顧問	山田 稔			嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一
〃						柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男
相談役	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	柳沢武男	柳沢武男	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘
〃	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	堀田 弘	堀田 弘	大島善春	大島善春	大島善春	大島善春	大島善春
区長	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘	大島善春	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎
代理	大島善春	大島善春	大島善春	嶋田治郎	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典
会計	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典	井下哲雄	井下哲雄	高柳保男	高柳保男	高柳保男	高柳保男
書記	深澤博義	深澤博義	深澤博義		高柳保男	千明文江	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一
環境	島野敏雄	尾内健次	尾内健次	尾内健次	尾内健次	尾内健次	尾内健次	尾内健次	尾内健次	尾内健次
	大島正次	小保方幹雄	小保方幹雄							
年金	石倉正夫	石倉正夫	石倉正夫	井下哲雄	井下哲雄	高柳保男				
生涯学習	城田幸作	城田幸作	城田幸作	湯沢正誼	湯沢正誼	湯沢正誼	須永勝夫	高柳光男	高柳光男	下城雅之
防犯委員	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良
納税	大島善春	大島善春	大島善春	嶋田治郎	嶋田治郎					
監査	高柳保男	高柳保男	高柳保男	高柳保男	薄波 誠	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美
〃	薄波 誠	薄波 誠	薄波 誠	薄波 誠	菅谷渥美	下城 勇	下城 勇	下城 勇	下城 勇	下城 勇
評議員	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	中村平八郎	中村平八郎	片山重晴	片山重晴	天田勝好
〃	嶋田治郎	下城 勇	下城 勇	下城 勇	新井千代吉	片山重晴	片山重晴	堀田修也	堀田修也	堀田修也
〃	高柳保男	根岸昭夫	根岸昭夫	中村平八郎	中村平八郎	柳澤祥恵	柳澤祥恵	松井 勇	松井 勇	松井 勇
〃	石倉正夫	嶋田治郎	嶋田治郎	新井千代吉	片山重晴	山口浩一	天田勝好	下田徳明	下田徳明	片山重晴
〃	根岸昭夫	石倉正夫	石倉正夫	井下哲雄	柳澤祥恵	膳 勝美	膳 勝美	柳澤祥恵	柳澤祥恵	下田徳明
〃	中村平八郎	中村平八郎	中村平八郎	片山重晴	山口浩一	城田幸作	城田幸作	岡村貞夫	岡村貞夫	柳澤祥恵
〃	日下部清一郎			山口悦子	膳 勝美	岡村貞夫	岡村貞夫	天田勝好	天田勝好	岡村貞夫
〃					柳澤祥恵					

歴代行政年度別役員氏名

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
顧問	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一
〃	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	柳沢武男	堀田弘	堀田弘	堀田弘	堀田弘
		堀田弘	堀田弘	堀田弘	堀田弘	大島善春	大島善春	大島善春	大島善春
相談役	堀田弘	大島善春	大島善春	大島善春	大島善春	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎
〃	大島善春	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典
区長	嶋田治郎	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典	高柳保男	高柳保男	高柳保男	高柳保男
代理	尾内本典	高柳保男	高柳保男	高柳保男	高柳保男	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一
会計	高柳保男	井上雄二	井上雄二	井上雄二	井上雄二	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明
書記	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一
環境	尾内健次	尾内健次	尾内健次	尾内健次	尾内健次	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉
						川端儀雄	川端儀雄	川端儀雄	川端儀雄
年金									
生涯学習	下城雅之	下城雅之	下城雅之	千明亨	千明亨	千明亨	千明亨	石田博紀	石田博紀
防犯委員	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	林実	林実	林実	林実
監査	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美	菅谷渥美
〃	井下哲雄	井下哲雄	井下哲雄	井下哲雄	井下哲雄	井下哲雄	井下哲雄	井下哲雄	井下哲雄
評議員	天田勝好	天田勝好	北本正孝	柳澤勝美	柳澤勝美	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士
〃	堀田修也	堀田修也	柳澤勝美	北本正孝	北本正孝	北本正孝	石倉正夫	石倉正夫	石倉正夫
〃	松井勇	石原得雄	井上昌興	井上昌興	井上昌興	石倉正夫	山田節子	山田節子	山田節子
〃	北本正孝	北本正孝	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江	堀江有志男	岩渕健二	岩渕健二	岩渕健二
〃	櫻澤澄江	櫻澤澄江	石原得雄	石原得雄	石原得雄	岩渕健二	眞塩優	眞塩優	眞塩優
〃	柳澤勝美	柳澤勝美	石倉正夫	石倉正夫	石倉正夫	山田節子	大澤悦二	大澤悦二	大澤悦二
〃	井上昌興	井上昌興	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	石原栄子	岡村泰弘	岡村泰弘	岡村泰弘

歴代行政年度別役員氏名

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
顧問	堀田 弘	嶋田嘉一	嶋田嘉一						
〃	大島善春	堀田 弘	堀田 弘						
〃	嶋田治郎	大島善春	大島善春						
		嶋田治郎	嶋田治郎						
			尾内本典						
			山口浩一						
相談役	尾内本典	尾内本典	高柳保男		高柳保男	高柳保男	高柳保男	高柳保男	高柳保男
〃	高柳保男	高柳保男							
区長	山口浩一	山口浩一	眞塩 優	眞塩 優	眞塩 優	眞塩 優	嶋田高之	嶋田高之	嶋田高之
代理	眞塩 優	眞塩 優	嶋田高之	嶋田高之	嶋田高之	嶋田高之	角田富男	角田富男	角田富男
会計	林 実	林 実	林 実	林 実	石田博紀	石田博紀	佐俣尚稔	佐俣尚稔	角田富男
書記	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明	櫻澤孝明
環境	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉	神山眞吉
	吉田耕二	吉田耕二	吉田耕二	吉田耕二	小保方道信	小保方道信	小保方道信	小保方道信	堀江雅郎
年金				嶋田高之	嶋田高之	嶋田高之	角田富男	角田富男	角田富男
生涯学習	石田博紀	石田博紀	見持晴一郎	見持晴一郎	見持晴一郎	見持晴一郎	猪坂周一	猪坂周一	猪坂周一
防犯委員	林 実	林 実	岡村泰弘	岡村泰弘	岡村泰弘	岡村泰弘	岡村泰弘	岡村泰弘	岡村泰弘
監査	井上雄二	井上雄二	井上雄二	井上雄二	井上雄二	井上雄二	井上雄二	松本元良	石田博紀
〃	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	石田博紀	佐俣尚稔
評議員	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	石倉伸行	石倉伸行	石倉伸行	石倉伸行
〃	山田節子	山田節子	山田節子	根岸正彦	根岸正彦	根岸正彦	根岸正彦	根岸正彦	根岸正彦
〃	大澤悦二	大澤悦二	大澤悦二	石倉伸行	石倉伸行	松井孝江	松井孝江	堀田和久	堀田和久
〃	嶋田高之	嶋田高之	根岸正彦	松井孝江	松井孝江	八木敏昌	八木敏昌	大矢正規	大矢正規
〃	根岸正彦	根岸正彦	石倉伸行	石田博紀	八木敏昌	島田八千代	島田八千代		尾内俊武
〃	石倉伸行	石倉伸行	松井孝江	八木敏昌	島田八千代	山崎希久雄	山崎希久雄		渡辺まさ代
〃	岩淵健二	松井孝江	石田博紀	島田八千代	山崎希久雄	日下部嘉彦	日下部嘉彦		

歴代年度別団体役員氏名

	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
神社総代	菅谷英二	菅谷英二	柳澤武男	柳澤武男	柳澤真一	柳澤武男	柳澤武男	柳澤武男
〃	柳澤武男	柳澤武男	飯島弘一	飯島弘一	飯島弘一	飯島弘一	飯島弘一	飯島弘一
〃	飯島弘一	飯島弘一	下城敏郎	下城敏郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎
公園愛護会	柳澤武男	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	嶋田嘉一	堀田弘	堀田弘	堀田弘
警察協力員	柳澤武男	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士			
社体推	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士
〃	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏
〃	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子
〃	井上きよ子	井上きよ子	井上きよ子	井上きよ子	井上きよ子	井上きよ子	井上きよ子	中村令子
ママさんバレー	中村令子	中村令子	中村令子	中村令子	中村令子	中村令子	小林しま子	小林しま子
健康推進	嶋田育子	嶋田育子	下城八重子	下城八重子	下城八重子	下城八重子	尾内静枝	尾内静枝
〃	石倉松江	石倉松江	松井孝江	松井孝江	松井孝江	松井孝江	下城町子	下城町子
青少推	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝
三分団								松本元良
〃								井上昌興
〃								新井利和
〃								下田竜司
婦人防火				中村令子	中村令子	中村令子	櫻澤澄江	櫻澤澄江
〃				松井孝江	松井孝江	松井孝江	嶋田敦子	嶋田敦子
ボランティア	根岸登美子				山田節子	山田節子	堺悦子	城田ナミ子
〃	小内登志子				眞塩あぐり	眞塩あぐり	山田節子	堺悦子
民生委員	下城文枝	山口悦子	山口悦子	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典
〃	山口悦子	尾内本典	尾内本典	根岸登美子	根岸登美子	根岸登美子	根岸登美子	根岸登美子
育成会	北本正孝				関口健二	根岸正彦	浅野誠	石田節子
P T A 小	下城町子				中村美由輝	柳澤晴美	林秀美	柳澤晴美
P T A 中	原玲子				関口ひろ子	佐俣映子	植木なみ子	黒澤三千代
長寿会	柳澤貞男	飯島浩一	飯島浩一	飯島浩一	飯島浩一	飯島浩一	飯島浩一	下城勇
赤城クラブ	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一	片山重晴
婦人会	島野優子	島野優子	島野優子	島野優子	島野優子	島野優子	堺悦子	山口悦子

歴代年度別団体役員氏名

	平成9年	平成10年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
神社総代	柳澤武男	柳澤武男	柳澤武男	柳澤武男	柳澤武男	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎
〃	飯島弘一	飯島弘一	飯島弘一	飯島弘一	松本吾郎	堀田弘	堀田弘	堀田弘	堀田弘
〃	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	茂木文夫	茂木文夫	茂木文夫	茂木文夫	茂木文夫
公園愛護会	堀田弘	大島善春	大島善春	大島善春	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎
交通安全						堀田修也	堀田修也	堀田修也	堀田修也
〃						新井逸成	新井逸成	新井逸成	新井逸成
社体推	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士	嶋田廣士
〃	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏	羽鳥基宏
〃	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	中村令子	中村令子	中村令子	中村令子
〃	中村令子	中村令子	中村令子	中村令子	中村令子	下城町子	下城町子	下城町子	下城町子
ママさんバレー	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	柳沢晴美	柳沢晴美	柳沢晴美	柳沢晴美
健康推進	尾内静枝	尾内静枝	尾内静枝	尾内静枝	真塩あぐり	真塩あぐり	柳沢淑子	樋口明美	樋口明美
〃	千明文江	千明文江	千明文江	千明文江	岡村澤子	柳沢淑子	根岸昭子	根岸昭子	井上笑美子
青少推	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	斉藤暢廣	斉藤暢廣	斉藤暢廣	斉藤暢廣	斉藤暢廣
三分団	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良	松本元良
〃	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興
〃	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和
〃	下田竜司	下田竜司	下田竜司	下田竜司	下田竜司	下田竜司	下田竜司	下田竜司	下田竜司
婦人防火	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江	井下つた江	井下つた江	井下つた江	井下つた江
〃	根岸昭子	根岸昭子	根岸昭子	根岸昭子	根岸昭子	荻原明子	荻原明子	荻原明子	荻原明子
ボランティア	堺悦子	城田ナミ子	城田ナミ子	城田ナミ子	塩谷俊子	塩谷俊子	山口悦子	嶋田育子	嶋田育子
〃	山田節子	堺悦子	堺悦子	堺悦子	栗原浜子	栗原浜子		小堀えみ子	小堀えみ子
民生委員	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典	柳沢淑子	柳沢淑子	柳沢淑子
〃	根岸登美子	根岸登美子	根岸登美子	根岸登美子	根岸登美子	根岸登美子	菅谷喜至子	菅谷喜至子	菅谷喜至子
育成会	荻原一三	黒澤完次	黒澤完次	湯澤孝夫	角田富男	角田富男	結城利夫	結城利夫	岩渕礼子
P T A 小	浅野京子	国塚美子	国塚美子	岩渕礼子	栗原久枝	栗原久枝	榎本登志美	榎本登志美	茂木悦子
P T A 中	樋口明美	井下つた江	井下つた江	下城敬子	遠藤絹子	遠藤絹子	浅野京子	浅野京子	栗原久枝
長寿会	下城勇	下城勇	下城勇	下城勇	下城勇	下城勇	堀田修也	堀田修也	堀田修也
赤城クラブ	片山重晴	片山重晴	片山重晴	片山重晴	片山重晴	片山重春	北本正孝	北本正孝	北本正孝
婦人会	山口悦子	柳澤祥恵	柳澤祥恵	柳澤祥恵	柳澤祥恵	柳澤祥恵	櫻澤澄江	櫻澤澄江	樋口明美
〃									尾内静枝

歴代年度別団体役員氏名

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
神社総代	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	松本吾郎	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘
〃	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘	堀田 弘	茂木文夫	中村平八郎	中村平八郎	中村平八郎
〃	茂木文夫	茂木文夫	茂木文夫	茂木文夫	中村平八郎	城田幸作	城田幸作	城田幸作
公園愛護会	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎
〃							嶋田治郎	嶋田治郎
〃							堀田修也	堀田修也
交通安全	堀田修也	堀田修也	堀田修也	堀田修也	堀田修也	堀田修也	高柳保男	高柳保男
〃	新井逸成	新井逸成	高柳保男	高柳保男	高柳保男	高柳保男		川端儀雄
								新井逸成
社 体 推	嶋田廣士	羽鳥基宏	八木敏昌	石倉伸行	石倉伸行	石倉伸行	石倉伸行	石倉伸行
〃	羽鳥基宏	八木敏昌	石倉伸行	羽鳥直孝	羽鳥直孝	羽鳥直孝	羽鳥直孝	羽鳥直孝
〃	中村令子	柳澤晴美	大矢美代子	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美
〃	下城町子	大矢美代子	柳澤晴美	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子
ママさんバレー	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美
健康推進	樋口明美	樋口明美	樋口明美	樋口明美	樋口明美	樋口明美	樋口明美	渡辺まさ代
〃	井上笑美子	井上笑美子	井上笑美子	井上笑美子	井上笑美子	井上笑美子	井上笑美子	齋藤愛子
青 少 推	斉藤暢廣	斉藤暢廣	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男
三 分 団	松本元良	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興
〃	井上昌興	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和	新井利和
〃	新井利和	松本元良	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎
〃	下田竜司	下田竜司					下城武史	下城武史
婦人防火	井下つた江	井下つた江	井下つた江	井下つた江	井下つた江	井下つた江	井下つた江	井下つた江
〃	荻原明子	荻原明子	荻原明子	荻原明子	折茂喜久枝	折茂喜久枝	折茂喜久枝	折茂喜久枝
〃			城田幸作	城田幸作	城田幸作	城田幸作	城田幸作	高柳光男
ボランティア	嶋田育子	嶋田育子	下城八重子	井上和子	小林しま子	小林しま子	塩屋より子	塩屋より子
〃	小堀えみ子	小堀えみ子	井上和子				島田八千代	島田八千代
民生委員	柳澤淑子	柳澤淑子	柳澤淑子	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江
〃	菅谷喜志子	菅谷喜志子	菅谷喜志子	羽鳥清子	羽鳥清子	羽鳥清子	羽鳥清子	羽鳥清子
育 成 会	卯月由美子	今泉祥江	吉本千鶴	山本雅代	吉本千鶴	山本雅代	羽鳥有香	育 成 会
P T A 小	下城千景	田中清美	藤崎朋子	葛西真須美	嶋田たまき	嶋田たまき	嶋田たまき	嶋田たまき
P T A 中	下城晴子	平林和樹	岡村恵美	茂木悦子	細野俊裕	茂木悦子	細野俊裕	関口陽子
長 寿 会	堀田修也	堀田修也	石倉正夫	石倉正夫	石倉正夫	石倉正夫	石倉正夫	石倉正夫
赤城クラブ	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	北本正孝	角田富雄
婦人会	樋口明美	石原榮子	石原榮子	石原榮子	石原榮子	羽鳥清子	羽鳥清子	羽鳥清子

歴代年度別団体役員氏名

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
神社総代	堀田 弘	中村平八郎	中村平八郎	天田勝好	天田勝好	千明 亨	千明 亨	千明 亨	千明 亨
〃	中村平八郎	石田博紀	石田博紀	下城雅之	佐俣尚稔	山口浩一	山口浩一	山口浩一	山口浩一
〃	城田幸作	天田勝好	天田勝好	堀江有志男		多賀谷智信	多賀谷智信	柳澤勝美	柳澤勝美
公園愛護会	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	尾内本典	尾内本典	尾内本典	尾内本典
赤城親交会	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	嶋田治郎	井上昌興	井上昌興	井上昌興	井上昌興
交通安全	堀田修也	堀田修也	川端儀雄	川端儀雄	川端儀雄	川端儀雄	川端儀雄	川端儀雄	神山真吉
〃	高柳保男	高柳保男							
〃	川端儀雄	川端儀雄							
〃	新井逸成	新井逸成							
〃									
社 体 推	石倉伸行	石倉伸行	羽鳥直孝	羽鳥直孝	嶋田高之	嶋田高之	嶋田高之	牛込亨介	牛込亨介
〃	羽鳥直孝	羽鳥直孝	羽鳥直孝	羽鳥直孝	牛込亨介	牛込亨介	牛込亨介	塩屋新一	塩屋新一
〃	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美
〃	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子	大矢美代子
ママさんバレー	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美	柳澤晴美
健康推進	渡辺まさ代	渡辺まさ代	嶋田たまき	嶋田たまき	嶋田たまき	小川真澄	小川真澄	小川真澄	小川真澄
〃	齋藤愛子	齋藤愛子	石倉則子	石倉則子	石倉則子	堀田智恵美	堀田智恵美		
青 少 推	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男	井上哲也	井上哲也
三 分 団	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎	中村貞三郎
〃	下城岳史	下城岳史	下城岳史	下城岳史	下城岳史	下城岳史	下城岳史	下城岳史	下城岳史
〃	松本典昭	松本典昭	松本典昭	松本典昭	牛込亨介	牛込亨介	牛込亨介	牛込亨介	牛込亨介
〃				牛込亨介					
婦 人 防 火	井下つた江	井下つた江	折茂喜久枝	折茂喜久枝	折茂喜久枝	折茂喜久枝	折茂喜久枝		
〃	折茂喜久枝	折茂喜久枝	浅野京子		高橋明日香				
防犯パト	天田勝好	天田勝好	天田勝好	塩屋与七郎	塩屋与七郎	小保方道信	深澤敬典	深澤敬典	小保方道信
ボランティア	島田八千代	島田八千代	島田八千代	石田節子	石田節子	石田節子	石田節子	石田節子	石田節子
〃	高柳勝世	松井孝江	松井孝江	松井孝江	松井孝江	松井孝江	松井孝江	渡邊まさ代	渡邊まさ代
民生委員	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江	櫻澤澄江	黒澤里江	黒澤里江	黒澤里江	黒澤里江	黒澤里江
〃	羽鳥清子	黒澤里江	黒澤里江	黒澤里江	中村令子	中村令子	中村令子	中村令子	
〃									
育成会	小川真澄	高橋 明	見持陽子	樋口ひとみ	木村舞子	嶋田香奈子	瀬川昌美	小林恵理	川島朋美
PTA小	羽鳥有香	小川真澄	小林佳代子	井野きく江	日野美保	関 口 文	濱本貴子	諏訪みず穂	清水美和
PTA中	栗原実保	伊藤泰子	吉井秀子	橋爪まり子	吉井秀子	齋藤咲野	岡田美香子	大谷幸恵	根 本 桂
〃									
長 寿 会	尾内本典	尾内本典	尾内本典	川端儀雄	川端儀雄	川端儀雄	川端儀雄	尾内本典	尾内本典
赤城クラブ	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男	角田富男	湯澤孝夫	湯澤孝夫	湯澤孝夫	湯澤孝夫
婦人会	小林しま子	小林しま子	小林しま子	小林しま子	羽鳥清子	羽鳥清子	羽鳥清子	羽鳥清子	小林しま子
〃	尾内 静枝	尾内 静枝	尾内 静枝	尾内 静枝	根岸昭子	根岸昭子	根岸昭子	根岸昭子	尾内 静枝

歴史年表

- 1608 慶長13年 下植木村赤城神社再建される。
- 1810 文化7年 6月27日 粕川洪水により粕川筋は残らず落ちる。
- 1812 文化9年 6月28日 粕川大水、一ノ堰、二ノ堰大破。
- 1815 文化12年 7月28日 粕川大出水
- 1840 天保11年 5月～7月 長梅雨のため、6月下植木村では粕川の水溢れ被害出る
- 1887 明治20年 宿組 戸数34戸。機屋2戸、紺屋1戸、杵屋1戸
- 1887 明治20年 4月25日 村議会議員となる。 下城彌一郎 ～33年4月13日まで
- 1889 明治22年 11月10日 両毛線開通。伊勢崎駅が開業。
上植木・下植木・八寸併せて殖蓮村と称す。
殖蓮村区編成条例により12区。第7区大字字宿組となる。
- 1892 明治25年 太田県道開通 戸数33戸
- 1895 明治28年 3月29日 村会議員となる。 井下 久馬 ～33年4月13日まで
- 1896 明治29年 3月28日 村会議員となる。 下城 盛次 ～32年10月6日まで
- 1899 明治31年 赤城神社本殿・拝殿 神楽殿・参道改修
- 1896 明治32年 10月6日 県議会議長となる。 下城彌一郎
- 1900 明治33年 4月13日 村会議員となる。 下城彌一郎 ～37年4月6日まで
- 1900 明治33年 7月30日 村会議員となる。 根岸貞次郎 ～37年4月6日まで
- 1903 明治36年 10月2日 赤城神社改築委員会協議決定。
- 1904 明治37年 4月7日 村会議員となる。 下城 彌蔵 ～41年2月20日まで
- 1904 明治37年 4月8日 村会議員となる。 尾内 亀重
- 1904 明治37年 5月8日 区編成決議14区編成となる。第8区大字下植木字宿組
- 1907 明治40年 10月7日 郡会議員となる。 井下 久馬 電話開通
- 1908 明治41年 5月25日 伊勢崎郵便局で電話交換事務取扱開始。155番 下城彌一郎

歴史年表

- 1908 明治41年 6月5日 下植木の村社赤城神社に、大字内の二社を合祀する。
- 1910 明治43年 3月27日 東武線開通。伊勢崎駅が開業。戸数48戸
- 1913 大正2年 3月11日 第8区規定書(付役員) 戸数55戸
- 1916 大正5年 2月24日 巾2間3尺。長さ168間。宮前橋の新設。
- 1916 大正5年 8月30日 伊勢崎町日吉町・下植木村字宿組境四つん掘り橋掛け替え
完成。
開通式 里道が新設される後の足利道。
- 1922 大正11年 8月26日 粕川流域で水害。
- 1922 大正11年 8月26日 大谷岱一采女村から移転開業(大谷震也 節子)親
- 1923 大正12年 この年殖蓮村西瓜市場が下植木に設立される。戸数83戸
- 1925 大正14年 大早魃の殖蓮村で田植え不能の田が多く出る。
- 1927 昭和2年 宮前橋(一本橋)がコンクリート橋になる。
- 1928 昭和3年 3月2日 宿組より東組に通ずる稲荷林道路(本店前)開通。
発議者 下城彌一郎・島田利蔵 戸数85戸
- 1929 昭和4年 3月2日 天増寺橋がコンクリート橋になる。
- 1934 昭和9年 殖蓮村足利道が道路改修される。
- 1934 昭和9年 殖蓮橋が木製で架け替えられる。
- 1939 昭和14年 足利新道路線を延長して県道となり旧足利道は廃れる。
- 1940 昭和15年 3月1日 下植木世帯数782、人口4755人
- 1940 昭和15年 9月13日 伊勢崎市制施行 井下辰雄市議会議員
- 1940 昭和15年 10月21日 井下辰雄市議会副議長
- 1942 昭和17年 7月23日 宮前町区事務所木造工事竣工届け 建築主 柳澤幸太郎

歴史年表

- 1945 昭和20年 8月15日 終戦前夜14日夜半、伊勢崎大空襲
- 1947 昭和22年 9月15日 カスリン台風が襲来、伊勢崎市大被害をもたらす。
- 1948 昭和23年 7月4日 水害のため植木橋流失 通行不能
- 1948 昭和23年 9月15日 アイオン台風が襲来
- 1949 昭和24年 8月31日 キティ台風が襲来
- 1950 昭和25年 7月30日 宮前橋完成する。
- 1956 昭和31年 嶋田光次市議会議員
- 1979 昭和54年 第1回町民大運動会開催
- 1981 昭和56年 宮前土地区画整理事業着工
- 1983 昭和58年 10月15日 第38回国体秋田県ソフトボール選手が宮前会館に宿泊
- 1988 昭和63年 12月10日 原内科医院開業
- 1989 平成元年 4月1日 宮前公園愛護会発足、会員数25名
- 1992 平成4年 会議所名義財団法人から地縁団体に変更
- 1995 平成8年 8月24日 第1回納涼祭開催。以後隔年開催
- 1999 平成11年 7月9日 宮前町自主防災組織検討会。
- 2001 平成13年 11月10日 第1回文化作品展および菊花展開催される。
- 2004 平成16年 4月11日 宮前町会館落成式(鉄骨造り鋼板葺183.84㎡)
- 2006 平成18年 4月1日 羽鳥基宏市議会議員 3期平成30年まで
- 2009 平成21年 4月10日 宮前町交番が開所される。
- 2011 平成23年 3月13日 東日本大震災宮前町でも屋根瓦等破損家屋42軒
- 2011 平成23年 宮前土地区画整理事業完工
- 2013 平成25年 10月27日 宮前町防災訓練実施(宮前公園)
- 2020 令和2年 世界的に新型コロナウイルス感染症がまん延
- 2022 令和4年 宮前町人口945人(外国人228人)・世帯数511(113)

編集後記



宮前公園から西をドローン撮影(2021/9/11)

町内史編纂委員会が発足しましたが、初めての経験のなかで年月が経つばかりでしたと同時に、町内所蔵品や文書の資料が乏しく、記録として明確に残された資料も少なく苦慮いたしました。収集された資料の分析の位置づけが決まらず難渋しておりましたが、担当部門を決め原稿を持ち寄り、検討会を定期的を開催いたしながら、資料収集のなかで、町内には素晴らしい人物、歴史資料、自然、文化、史跡等々があり、心強く感じられ勉強させられました。

編集にあたり、住民皆様より数多くお寄せいただきました原稿・資料のお陰で発刊の運びとなりましたことを感謝申し上げます。

皆様方に編集委員一同、心から御礼申し上げます。

(編集委員)



編集委員

尾内本典
高柳保男
櫻澤孝明
嶋田廣士
堀田 弘(故人)
堀田修也(故人)



■ 粕川は宮前橋を越えて
(東)に流れが変わります。

■ 赤城神社鳥居



HP

宮前町の歴史

令和4年10月1日 発行

発行 宮前町区長 嶋田 高之
伊勢崎市宮前町218番地

編集 宮前町の歴史編纂委員会
尾内本典 高柳保男 櫻澤孝明
嶋田廣士 堀田 弘(故人) 堀田修也(故人)

印刷 前原印刷
printing office maehara
伊勢崎市西久保町三丁目1708

□本歴史冊子は一部補助金を受けて製作致しました。



伊勢崎市宮前町区／宮前町の歴史編纂委員会

